

平成 1 7 年度

**独立行政法人国立美術館
国立西洋美術館**

実績報告書

目 次

国立西洋美術館の概要	3
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	4
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	7
1. 収集保管	7
(1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況	7
(2) 保管の状況	9
(3) 修理の状況	11
2. 公衆への観覧	12
(1) 展覧会の状況	12
「常設展」	14
「マックス・クリンガー版画展」(常設展版画作品展)	16
「《ローマの景観》:ピラネージのまなざし」(常設展版画作品展)	18
「芸術家とアトリエ」(常設展版画作品展)	20
「Fun with Collection 2005 いろいろメガネ Part1 あなたの見たか教えてください」(子どもから楽しめる美術展)	21
「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(共催展)	23
「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」(共催展)	28
「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画 フリッツ・ルフト・コレクションの所蔵作品による」(自主企画展)	32
「ロダンとカリエール」(共催展)	36
(2) 貸与・特別観覧の状況	40
3. 調査研究	41
4. 教育普及	43
(1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況	46
(1) - 2 広報活動の状況	47
(1) - 3 デジタル化の状況	49
(2) - 1 児童生徒を対象とした事業	50
(2) - 2 講演会等の事業	58
(3) - 1 研修の取組	63
(3) - 2 大学等との連携	65
(3) - 3 ボランティアの活用状況	66
(4) 渉外活動	67
5. その他の入館者サービス	69

国立西洋美術館の概要

1. 目的

国立西洋美術館は、昭和34年、東京・上野公園の一角にフランス政府から寄贈返還された松方コレクション（印象派の絵画及びロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション）を基礎に、西洋美術作品を広く公衆の観覧に供するとともに、西洋美術を専門的に調査研究する機関として開館した。

以来、これまで広く西洋美術全般を対象とする唯一の国立の美術館として、展覧事業のみならず、西洋美術に関する作品及び資料の収集・保存、調査研究、教育普及、出版物の刊行等を行ってきた。

当館の目的は、現在及び将来においてできる限り効果的に西洋美術に関する作品を収集・展示し、また、幅広い人々に作品への理解と楽しみが深められるように、コレクションを管理かつ拡充・保存し、美術情報、美術館教育の調査研究に努めることである。

2. 土地・建物

建面積	3,636㎡
延べ面積	17,369㎡
展示面積	4,420㎡
収蔵庫面積	1,097㎡

3. 定員 31人

4. 予算 1,132,781,000円

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
 - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
 - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
 - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
 - (4) 外部委託の推進
 - (5) 事務のOA化の推進
 - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
 - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

実績

1. 業務の一元化
情報公開制度の共通的な事務を一元化し、本部を中心とした文書管理システムを稼働
人事記録、給与計算等の人事事務、収入、支出、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等共済事務で各館で行っていたもののうち、共通的な事務を本部へ一元化し、業務の効率化を図っている。
2. 省エネルギー等(リサイクル)
 - (1) 光熱水量
節水、節電による省エネルギーについての文書を職員へ回覧し、意識の啓発を図るなどして省エネルギー化に努めた。
ア. 電気 使用量 5,434,917kwh (昨年度比 100.76%) 料金 74,930,220 円 (昨年度比 100.65%)
イ. 水道 使用量 24,502 m³ (昨年度比 93.39%) 料金 14,752,595 円 (昨年度比 93.10%)
ウ. ガス 使用量 625,536 m³ (昨年度比 93.78%) 料金 32,149,770 円 (昨年度比 103.10%)
 - (2) 廃棄物処理量
コピー機の周辺に両面コピーを促す表示を行い廃棄物の減量化に努力している他、LANの活用によるペーパーレス化に努めた。
ア. 一般廃棄物 18,620 kg (昨年度比 95.51%) 料金 345,210円 (昨年度比 95.51%)
イ. 産業廃棄物 10,625 kg (昨年度比 109.31%) 料金 295,477円 (昨年度比 109.31%)
 - (3) その他 古紙の再利用によるリサイクル、OA機器のトナーカートリッジリサイクルによる再生使用
3. 施設の有効利用
講堂等の積極的な利用を推進し、展覧会に関する講演会、レクチャーの他、外部団体の見学会、研修会、会議等への有効利用を図った。
講堂等の利用率 30.7% (112日/365日)

講演会	14日
スライドトーク等	17日
ワークショップ	24日
音楽プログラム(コンサート、上映会含む)	11日
先生のための鑑賞プログラム	3日
研修会、見学会、内覧会、協議会等	43日
4. 外部委託
平成17年度も下記の外部委託を行い、業務の効率化を図った。今後も各業務の見直しを行い、外部委託の可能なものの検討を進めていく。

- | | | |
|----------|--------------------|------------------|
| 1 会場管理業務 | 7 広報物等発送業務 | 13 ホームページ改訂・更新業務 |
| 2 設備管理業務 | 8 美術館情報システム等運用支援業務 | |
| 3 清掃業務 | 9 収入金等集配金業務 | |
| 4 保安警備業務 | 10 レストラン業務 | |
| 5 機械警備業務 | 11 ミュージアムショップ業務 | |
| 6 情報案内業務 | 12 ホームページサーバ運用管理業務 | |

5. O A化

館内LANの整備状況

全館内にLANが整備されており、館内LANシステムの活用による職員への連絡業務効率化、ペーパーレス化を推進し、共通情報の各種ファイルを共有化することによって事務の省力化を図っている。また、収入、支出、財産管理等企業会計を効率的に処理するための会計情報システムを導入し、各種伝票作成時に帳簿類へ自動記帳化を図るなど、事務処理の正確・迅速化及び、省力化が成されるよう努めている。

紙の使用量 556,500枚（昨年度比96.36%）

- A 4 512,500枚
- A 3 24,000枚
- B 4 10,000枚
- B 5 10,000枚

6. 一般競争入札

代替性の無い、貴重な文化遺産である西洋美術作品を所蔵しているため、保安上の観点から会場管理業務、清掃業務については指名競争入札を実施している。また、複数の業者から見積書を徴収するなどして市場調査を行い、コストに対する意識を高め、経費の削減に努めている。

一般競争入札件数2件（総契約件数82件）

- 1 国立西洋美術館設備総合管理業務
- 2 国立西洋美術館設備総合保全業務

7. 評議員会

(1) 評議員会

開催回数 1回

議事内容

第6回評議員会 平成17年7月19日（火）11:00～13:30

- (1) 平成16年度事業報告について
- (2) 平成17年度事業計画について
- (3) 展覧会計画
- (4) その他

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成17年度も、来館者サービスの向上を考慮しつつ業務運営の一元化、省エネルギー化を図り、昨年度に引き続き事業全般において効率化の達成に努めた。

業務効率化では、独立行政法人化に伴う積極的な外部資金獲得の必要性を職員に認識させ、申請率・採択率の向上を図るための方策の一環として科学研究費補助金説明会を開催した。また、新たに外部の建築家・デザイナー等（阪田誠造氏、藤木正義氏、横田重雄氏）が参画する「SD（スペース・デザイン）諮問委員会」を設置し、美術館の建築・デザインに関する全般について様々な検討を続けているところである。

施設利用の面では、外部団体への会議室や講堂の貸し付け、様々な鑑賞会・研修会、海外機関からの視察訪問等を受入れたほか、地域の養護学校及び社会福祉団体の事業に協力し観覧料金の減免を行うなど、幅広い要望に応えるよう努め、施設の有効利用を推進した。

国立西洋美術館では職員の研修にも力を入れており、昨年度に引き続き放送大学受講、英会話研修、パソコン講習、救命講習等の各種研修を積極的に活用している。また、職員・看手を対象とした展覧会レクチャーを企画展ごとに行っているほか、より魅力ある展示を目指すため、館長、職員、ディスプレイ設営業者が参加し、会場設営物のデザイ

ンについて展示会場内で自由な意見交換も行った。さらに平成17年度は英語ライティング講習を新たに開始するなど、研修等を通じての理解促進、意識や取り組みへの改善に努力し、資質の向上及び組織の活性化を図っている。

省エネルギーの数値においては昨年度同様に効率化に努め、夏場のノーネクタイなどの軽装での執務(COOL BIZ)、冬場の適正な暖房温度の設定(WARM BIZ)及び不要な照明や使用していないIOA機器の電源を切るなど節約に努め、省エネルギーに取り組んだ。また、文書の回覧化、共有化、一元化を推進したことで、紙の使用量については昨年度と比較して96.36%に抑えることができた。

【見直し又は改善を要する点】

電気、産業廃棄物及び、ガスについては料金が昨年度の実績を若干上回った。増加の要因は、昨年度まで展覧会の共催者にご負担いただいていた展覧会会期中の光熱水量及び料金の2分の1を、平成17年度より美術館の負担としたこと、また、原油高による料金単価値上げの影響と考える。今後のさらなる減量化策の検討が課題である。

【計画を達成するために障害となっている点】

入館者数や季節の変化によって、光熱水量が増減することとなり、それを正確に把握することは困難である。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 収集・保管

(1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況

中期計画
(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。 (国立西洋美術館) 中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。
(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。

方 針

<p>国立西洋美術館のコレクションは、開館当初からの松方コレクションのフランス近代美術に加え、その後充実を計ってきた15 - 20世紀の西欧美術が中心である。ルネサンス以降の西洋美術の歴史を概観できるような展示という課題は、絵画や版画の分野においては、少しずつではあるが着実に達成されてきている。一方、彫刻、工芸、素描などは、ロダン彫刻のまとまった収集を除いて未整備であり、未だに一貫性のある収集には至っておらず、これらの分野の補強と展開が今後の課題である。</p> <p>また、絵画の収集については、めりはりのきいた特色ある魅力的なコレクション作りを目指す時期に来ているのではないかと考える。さらに将来的に、収集範囲を15世紀以前の古代・中世さらには1920 - 30年代にまで拡大されるべきか否かは今後の検討課題の一つであると考えている。</p> <p>平成17年度は、長年の懸案事項のひとつであった旧松方コレクションの再構成という課題に対しては、かつての松方コレクションであるピーテル・ブリューゲル(子)の作品《鳥農のある風景》を購入することができ、これにより、16 - 17世紀の北ヨーロッパの風景画の分野が強化された。</p>
--

実 績

1. 購入	24件
2. 寄贈	5件
3. 寄託	13件(平成18年3月31日現在の総数)
4. 陳列品購入費	予算額 247,316,000円 決算額 341,521,081円

自己点検評価

<p>【良かった点、特色ある取組み】 平成17年度は絵画7点、版画17点を購入した。また、絵画2点、素描1点、版画2点の寄贈を受けた。平成17年度の最重要作品は、ピーテル・ブリューゲル(子)の《鳥農のある冬景色》である。これはブリューゲル(父)の作品に基づく息子の作品で、最もよく知られたフランドル風景画のひとつであるばかりか、旧松方コレクションに由来する作品である。散逸した旧松方コレクションに関しては、少しずつではあるが当館の研究員による調査が着実に進んでおり、この度の購入も、その成果であると考えている。さらに、平成14年から寄託を受けている作品であり、すでに所蔵品展示のなかで展示されていたポール・ランソンの《ジギタリス》を購入した。この作品は、当館の19世紀末のナビ派のコレクションの中でも、ことに重要な分野の一つであり、このランソンの優れた作品の購入を通して、世界的に見ても当館のナビ派収集が充実したものとなったと考える。</p> <p>【見直し又は改善を要する点】</p>

彫刻、工芸、素描等の分野の補強と展開、また絵画コレクションにおける特色ある魅力的なコレクション作りを目指すことは、当館の収集における課題である。このことを踏まえ、今後も中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れを概観できるようなコレクションの収集に努めてまいりたい。

また、平成17年度は購入候補作品の選定が遅れたため、購入委員会の開催が例年より遅れてしまった。より良い作品を求めての遅延ではあったものの、購入候補作品の選定については、可能な限り迅速な対応をとることを念頭に進めることとしたい。

*添付資料

収集した美術作品件数の推移（事業実績統計表 p. 1）

寄託された美術作品件数の推移（事業実績統計表 p. 2）

購入・寄贈美術作品の一覧（事業実績統計表 p. 42）

(2) 保管の状況

中期計画

(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。

(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。

実績

1. 温湿度

展示会場

空調実施時間 24時間

作品への影響を最低限とするため、下記範囲の中で一定の温湿度となるよう努めている。

通 期： 温度20～22 湿度50～55%

(夏期のみ： 温度22～24 湿度50～55%)

夏期の展示会場内温度については、来館者へ配慮し温度を2度高く設定している。

収蔵庫

空調実施時間 24時間

温度20～22 湿度50～55%

2. 照明

器具： 蛍光灯（紫外線カット）、スポットライト（紫外線・赤外線カットフィルター）

照度： 紙作品などの光に弱いもの 50ルクス以下

それ以外の作品 200ルクス以下

3. 空気汚染

館内数十箇所において空気汚染調査を継続的に行っている。また、各種工事後には必ず空気測定を行い、発生した有害物質が無くなったことを確認後に作品を展示している。

4. 防災

監視

火災総合受信盤及び監視カメラによる監視。（中央監視室・総合受付）

館全体には、非常放送設備による放送、非常通報設備による行政機関への連絡。

有事の際には館職員による自衛消防隊、委託業者による警備員、巡視等が観覧者の避難誘導を行う。

夜間は機械警備による監視である。

消火設備

展示室：予作動型スプリンクラー設備、屋内消火栓、消火器（強化液・粉末・水バケツ等）、排煙設備、非常放送設備

収蔵庫：二酸化炭素消火設備、ハロゲン化物消火設備

自動火災報知器

展示室・収蔵庫：煙感知器、熱感知器等

防災対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防災マニュアル（地震、火災、停電）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行っている。

平成18年3月27日（月）に、防災訓練を実施した。上野消防署の協力の元、消防・消火訓練、災害時作品搬出訓練、避難訓練、応急措置演習、119番通報訓練等を行った。訓練後には職員へ館全体の消火器等の配置図を周知し、消火活動の際の認識を徹底した。

5. 防犯

警備（原則として昼間は有人警備、夜間は機械警備）

館全体：開館時間中は看視・警備員による巡回警備と立哨警備の併用及び、監視カメラによる警備。

絵画：美術館システムによる機械警備、収蔵庫は随時監視カメラと機械警備の併用。

保安対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防犯マニュアル（作品接触、破壊、盗難）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

館内に収蔵されている期間の環境のみならず、館外に貸し出される作品が置かれる環境も管理・記録する目的で、温湿度データロガーを貸し出し作品に装着しているが、これは同時に借り入れ館に環境の適正な保全・管理を促すことにも良好に寄与していると考える。

平成17年度に開催した「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」展では、数多くの新規に制作した展示台・ケースを使用した。その準備段階において作品に有害な化学物質の放散が極力少ない材料を慎重に調査・選定し、展示計画に支障なく用意することができた。

昨年度より開始した館内への虫類の侵入、及び生息状況の予備調査について、総合的有害生物管理（IPM）の考え方に則って、引き続き平成17年度も実施した。特に中庭に面した扉等の開口部付近、および本館一階東側の扉付近で、夏季にダンゴ虫等の不快害虫が多数捕獲された。これらの生物が中庭および本館東側の植え込み付近に多数生息していたため、上記の開口部から館内の展示室等への侵入が推測された。そのため、建物内での薬剤の使用を極力避け、これらの生物の館内での生息数を効果的に減少させるため、不快害虫の殺虫剤を中庭および本館東側の植え込み内に、また、建物周辺部に忌避剤を散布したことにより、これらの生物の館内への侵入及び館内での生息数が激減し、その結果、建物内での薬剤の使用を極力避けることで、作品への悪影響も最小限に抑えられたと考える。

また、平成17年度は版画素描収蔵庫へ新たに版画素描閲覧室を併設し、常時展示をしていない版画・素描作品について、外部の研究者・専門家に対し予約制による閲覧を開始した。これにより、版画素描専用収蔵庫の更に機能的な使用が図られるものと考えられる。

平成17年度は、作品点検調書を9件作成した。これは、新規に購入及び寄贈受入れをした絵画についてのものである。

（平成17年度末作品点検調書作成件数：絵画作品364点、ブロンズ彫刻作品54点、工芸作品7点）

【見直し又は改善を要する点】

展覧会を行う場合に、展示会場の温度、湿度、照明は作品の保安全管理および借用先の要求する設定条件に従って厳密に管理されている。しかし、この環境は来館者にとっては快適と感ぜられない場合もある。特に夏期の温度設定は来館者の反応を見つつ至った設定ではあるが、すべての来館者が満足できるとは限らない。そのため、今後も検討を重ねていくと同時に、借用先に日本の気候条件に対する理解を求め、また来館者に環境条件への理解を求める働きかけも行っていく必要があると考える。

また上段の不快害虫の問題に関しては、その生態を考えると、来年度以降も外気温の上昇とともに植え込み内での生息数の増加が生じ、その結果館内への侵入・生息も再度増加することが懸念される。そのため来年度も引き続き調査を実施し、その結果をふまえて薬剤散布等の対策を検討する必要がある。

(3) 修理の状況

中期計画

(3)-1 修理,保存処理を要する収蔵品等については,保存科学の専門家等との連携の下,修理,保存処理計画をたて,各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち,緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理,保存処理の充実に寄与する。

実績

1. 絵画4件,版画1件,彫刻6件,額縁5件

2. 研究交流等

「文化財の科学的調査法に関する研究」へ協力(独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所)

「文化財の防災計画に関する研究会 - 震災から文化財を守る - 」へ参加・発表(独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所)

3. 修理経費 予算額 17,977,000円 決算額 17,101,910円

自己点検評価

【良かった点,特色ある取組み】

屋内彫刻の免震すべり支承設置について昨年度より調査を始めている。平成17年度は予算を計上し,屋内彫刻に地震災害時の安全対策である転倒防止用の金属板を台座に取り付け,地震時にはすべて地震力を弱めて,彫刻や観覧者に被害を及ぼすことの無い仕組みの実験モデルを製作した。当館内においてタイル上,ゴムタイル上で摩擦係数を調査する実験を行い,堅い陶磁器のタイル上では摩擦係数は小さすぎる傾向にあり,ゴムタイルでは大きすぎる傾向にあるが,地震の際に彫刻が転倒する震度5強程度ではゴムタイル上でも彫刻は転倒せずにするため,実際の現場で使用可能なことが判明した。更に機能効率を良くするための追試を行いながら,実際に配備を行うこととした。この防災免震対策は他の美術・博物館にとって,高価な免震装置を購入するのではなく,安価な地震対策として将来普及していくことが見込まれる。

他に,平成17年度は,「文化財の科学的調査法に関する研究」及び「文化財の防災計画に関する研究会 - 震災から文化財を守る - 」(独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所)へ参加し,研究成果の公開に努めた。

また,50年以上が経過している松方コレクションの大型額縁について,修復保存処置を施すことを決定した。当該額縁は予ねてより損傷が大きく,修復で手を加える必要があったが,既に時代を経たものを大切にす理念を貫くことを念頭に,処置を行うこととした。

【見直し又は改善を要する点】

当館では,新館1階の展示場内に資料展示のスペースを設けて,平成10・11年度に実施した彫刻の免震化と修復の工程を,写真,実物資料,模型等を使って紹介する「前庭彫刻 免震化と修復」を実施しているところであるが,修復事業については今後も研究発表等を積極的に行い,更に広報に努める必要があると考える。

また,当館彫刻の免震化において,前庭に設置する彫刻については,ロダン作「地獄の門」を始めとして免震化を施し順次再設置が行われており,そのほとんどが終了しているところである。しかし,当館の前庭は地下の企画展示館の天井部分に当たるため,建築上,前庭での物理的な強度に耐えうる設置位置の選択肢が限られてきてしまうという問題があり,完全な前庭彫刻の免震化再設置が実施されるまでには至っていない。残りの前庭彫刻の免震化については,今後も外部の技術者及び識者の意見を聴きながら設置計画の検討を続けていきたい。

なお,外部の技術者及び識者との連携・協力は,膨らみつつある保存修復全体の業務負担を分散するためにも,保存修復の業務水準向上のためにも不可欠なことであり,今後の連携・協力体制についての検討も併せて行っていく必要がある。

*添付資料

修理した美術作品の点数(事業実績統計表 p.3)

修理した美術作品の一覧(事業実績統計表 p.57)

2. 公衆への観覧

(1) 展覧会の状況

中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

(国立西洋美術館)

年3回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

実績(総括表)

1. 常設展
版画展示 3回(「マックス・クリンガー版画展:《イブと未来》《ある生涯》《ある愛》」,「《ローマの景観》:ピラネージのまなざし」,「芸術家とアトリエ」)
子どもから楽しめる美術展 1回(「Fun with Collection 2005 いろいろメガネ Part1 あなたの見かた教えてください」)
2. 企画展等 4回(中期計画記載回数:年3回程度)
共催展「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」
共催展「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」
自主企画展「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画 フリッツ・ルフト・コレクションの所蔵作品による」
共催展「ロダンとカリエール」
3. 入館者数 824,336人(目標入館者数591,000人)
4. 平成17年度貸与件数 4件8点(海外1件1点,国内3件7点)
5. 展覧会開催経費 予算額 256,572,000円 決算額 277,341,000円

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

年間を通じて多くの方々が企画展覧会と常設展示を訪れ、全体としてはバランスのとれたものであったと考える。また、平成17年度は展示の充実以外の面における活動についても推進を図っており、より多くの人に美術館に親しむ機会を持っていただくことを目標に、地域や観光事業と連携した様々な普及広報事業の実施に努めた。とりわけ、秋に開催された「キアロスクーロ:ルネサンスとバロックの多色木版画」は、我が国の多色浮世絵木版画と根本的には同じ技法によって作られたキアロスクーロ木版画を展示することによって西洋美術の独自性を明らかにすることを旨とした展覧会であり、浮世絵という多色木版画の伝統を持つ我が国で行われた意義は少なくなかったと考える。同時期に近隣の東京国立博物館で浮世絵の展覧会である「北斎展」が開催されたこともあり、展示を熱心

に鑑賞する来館者の姿が印象的であった。また、年始の開館日である1月2日に、美術館・博物館へ行きやすい環境作りを目的とした企画「美術館・博物館へ行こう A Day in the Museum」を新たに実施した。NPO法人美術ファンクラブ及び東京国立博物館と連携した積極的な広報及び無料観覧等の特別企画により、1月2日の入館者数実績が以前に比べて増（昨年度比6倍強）となり、当初に目指した「美術館・博物館へ行きやすい環境作り」という目的に対して着実な成果を得られたと考える。

【見直し又は改善を要する点】

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール」と「ドレスデン国立美術館展」は共に成功を収めたが、特に後者は出品作品が絵画・素描等の平面作品だけではなく、彫刻・工芸など多岐にわたる立体作品が展示されたため、やや窮屈な会場構成になってしまった。出品作品数の制限や展示方法などについて、さらに改善していく必要があると考える。

*添付資料

入館者数の推移（事業実績統計表 p.4 ）

入場料収入の推移（事業実績統計表 p.7 ）

「常設展」

方 針

フランスの建築家ル・コルビュジエが設計した本館では、18世紀以前に活躍した芸術家の絵画・彫刻作品を展示しており、キリスト教を主題とした多くの宗教画を見ることができ、新館では、19世紀から20世紀の作品が展示されている。また、素描のコレクションには、18世紀から19世紀のフランスの芸術家の作品が中心に所蔵され、版画コレクションには、15世紀から20世紀初頭までの主要な西洋版画家の作品が所蔵されており、これら版画・素描のコレクションは、テーマを設けて定期的に新館の1室で展示を行っている。さらに、彫刻作品として美術館前庭にロダンの《地獄の門》、《考える人》、《カレーの市民》と、プーデルの《弓をひくヘラクレス》を展示しているほか、館内にはロダンに加え、カルポー、マイヨールの作品も展示している。

なお、来館者が常設展の質の高い所蔵作品をいつでも鑑賞できるようにという方針と、通年にわたり展示するものである西洋美術作品の特性のもと、当館の代表的な所蔵作品は年間を通じて展示され、展示替えは特別な場合を除いて行われていない。(貸出中の作品の代替として、普段は収蔵庫にしまわれている作品を展示することはある。)また、常設展示における教育普及的配慮から、キャプション等のパネル類の充実が課題と考える。

平成17年度においても、引き続き常設展を美術館の核として、中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の大きな流れの概観を可能とし、最新の収集・研究成果を広く公開することによって、西洋美術の魅力を伝え、西洋美術への理解をいっそう深めることを目的とした展示方針で臨んだ。

実 績

1. 開催期間

平成17年4月1日～平成18年3月31日(294日間)

「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」, 「近・現代絵画と彫刻」

(平成18年1月10日(火)から1月30日(月)まで、展示替え及び改修工事のため臨時休館)

(所蔵品展のみの開催期間 90日間)

下記の展示は常設展と併設

平成17年3月8日(火)～5月29日(日)(73日間)(平成17年度は52日間)

版画作品展(春)「マックス・クリンガー版画展:《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」

平成17年10月8日(土)～12月11日(日)(56日間)

版画作品展(秋)「《ローマの景観》:ピラネージのまなざし」

平成18年3月7日(火)～6月4日(日)(79日間)(平成17年度は22日間)

版画作品展(春)「芸術家とアトリエ」

平成17年7月1日(金)～平成17年12月27日(火)(155日間)

「Fun with Collection 2005 いろいろメガネ Part1 あなたの見かた教えてください」

2. 会 場

前庭 屋外1階

本館 1階～2階

新館 1階～2階

3. 出品点数(常設作品点数)

前庭 6件

本館 87件

新館 101件

4. 入館者数 295,178人(目標入館者数230,000人)

うち常設展のみの入館者数111,928人

5. 入場料金 一般420(210)円,大学生130(70)円,高校生70(40)円,小中学生無料

()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料

65歳以上の方は無料

心身の障害者及び、その付添者は無料
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料
毎月第2、第4土曜日及び、文化の日は常設展示無料観覧日

6. 入場料収入（常設展のみの入場料収入の合計20,656,550円）

7. アンケート調査

調査期間 平成18年2月16日（木）～2月19日（日）（4日間）

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や、次回展覧会の割引券を提供するなどして、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

アンケート回収数 300件

アンケート結果

- ・大変良い33.7%（101件）・良い53.3%（160件）・まあまあだった9.3%（28件）
- ・あまり良くなかった1.7%（5件）・良くなかった0%（0件）・無回答2.0%（6件）

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

常設展示については、一般の方々からも、専門家の方々からも好意的なご意見を頂き、平成17年度の目標入館者数を上回った。

国立西洋美術館では、前述のとおり常設展を美術館の核として展示をできるだけ変更しないことを原則としている。従って、定期的に展示替えを行う他の美術館とは異なり、展示替えは原則としておこなっていない。他方、最新の収集・研究成果を広く公開するため、平成17年度においても版画素描展示室でテーマを決めて版画素描の展覧会を開催した。17年春にはクリンガーの代表的な版画作品による「マックス・クリンガー版画展：《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」を行った。秋には「《ローマの景観》：ピラネージのまなざし」を開催し、建築家でもあり考古学者でもあったピラネージによる古代遺跡のある景観を45点展示した。また、例年は夏に実施してきた教育プログラム「Fun with Collection」を見直し、平成17年度から通年のプログラムとした。平成17年度は「いろいろメガネ」として、所蔵品の一部の作品タイトルを隠し、その作品の題名を新たに付けてもらったり、所蔵品の中から作品を選んでもらい、その作品に対する思いを短い作文にまとめてもらったりする試みを行った。このようなプログラムを通じて、所蔵品に親しんでもらうと同時に、作品へのアプローチは必ずしも一つではないということを実感していただけたのではないかと考える。また、1月には常設展の展示スペース及び展示作品点数を増やすため、展示場内に新たに壁面を設置する工事を実施しており、常設展のさらなる充実に努めている。

平成17年度は常設展でのボランティアスタッフの活用も進展させた。昨年度に引き続きファミリー向け観賞用教材「びじゅつーる」の貸出担当及び「どうびじゅつ」を実施し、美術に関する理解を深めることに寄与したほか、新たに小・中・高校生の団体を対象として、常設展示でのスクール・ギャラリートークを開始した。これは、子どもたちの思考を刺激し、観察力を育て、自ら考えて言葉を紡ぐことを促す、対話式のトークプログラムである。本プログラムで子どもたちと対話をしたボランティアスタッフは、子どもたちの自主性を尊重し、「作品をじっくり観る」手助けを行った。

子どもから大人、さらに研究者や専門家までの幅広い層を対象とした展示がされたことは大きな成果であった。今後一層の充実に取り組んでまいりたい。

【見直し又は改善を要する点】

毎年、数点ずつ簡単な作品解説パネルを設置しているが、今後とも解説パネル、サイン及びキャプション等の見直し等を進め、多くの人に一層親しまれるよう、更に魅力ある常設展にすべく努力を重ねていきたい。

「マックス・クリンガー版画展：《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」（常設展版画作品展）

方 針

マックス・クリンガーは、生涯を通じておよそ 450 点の版画作品を制作しているが、なかでも連作として制作された 14 作は、彼の代表的なものとされている。国立西洋美術館には、この 14 の版画連作のうち 11 作が現在所蔵されている。

今回は、そのなかから 3 作、《イヴと未来》、《ある愛》、《ある生涯》を展示した。いずれの作品も、ひとりの女性を中心的モチーフとして扱っているもので、単に彼の想像力に富んだ幻想的世界を示すばかりでなく、社会の状況を批判的に捉える視点をも示唆するものとなっている。モラルなどによって構築された社会秩序のなかで、葛藤を引き起こさざるをえない個人の欲望の問題が、これらの作品では取り上げられている。それらが伝えてくるメッセージは、現在においても多くのことを考えさせてくるアクチュアルなものと言える。

実 績

1. 開催期間 平成 17 年 3 月 8 日（火）～平成 17 年 5 月 29 日（日）（73 日間）
（うち平成 17 年度 52 日間）
2. 会 場 国立西洋美術館新館 2 階 第 3 展示室
3. 主 催 国立西洋美術館
4. 出品点数 31 件
5. 入館者数 常設展会場内の版画素描展示室で開催した企画展示のため、入館者数の集計は行っていない。
6. 入場料金 常設展入場料金に含まれる。
7. 入場料収入 常設展入場料収入に含まれる。
8. 担当した研究員数 1 人
9. 展覧会の内容

マックス・クリンガーは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて活躍したドイツの代表的な芸術家のひとりである。彼の活動は、絵画、彫刻、版画と多岐にわたり、絵画作品としては《キリストの磔刑》や《オリュポスのキリスト》、《パリスの審判》といった代表作を制作し、また彫刻では、1902 年のウィーン分離派展に展示された《ベートーヴェン像》がよく知られている。しかし、彼の芸術家としての評価を高めてきたのは、こういった絵画や彫刻の作品というよりも、むしろ版画であった。クリンガーは、生涯を通じておよそ 450 点の版画作品を制作しているが、なかでも連作として制作された 14 作は、彼の代表的なものとされている。当館には、この 14 の版画連作のうち 11 作が現在所蔵されており、今回は、そのなかから 3 作、《イヴと未来》、《ある愛》、《ある生涯》を展示した。

10. 広報

インターネットホームページ、ポスター、国立西洋美術館ニュース等での情報提供を実施し、広報活動に努めた。

11. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【雑誌】

誌 名	掲載日	発 行	備 考
文化庁月報	2005.4.25	文化庁 / 編集 ぎょ うせい / 発行	4月号 P43 主任研究官 田中 正之 執筆

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

当館所蔵のクリンガーの版画連作 3 点を展示したものであったが、ブログ等ネット上での評判、評価も高く、観覧者の方々には非常に好意的に受け入れられたものであった。イメージのみによって物語を語る形式の連作であったために、各作品には詳しい解説を施したが、それが観覧者の理解を深める手助けとなり、好意的な評価の一因となったと考える。

【見直し又は改善を要する点】

展示作品数がやや多く、作品間の間隔が狭くなり、鑑賞環境としては十分なものではなかった。見易さと展示プランとの兼ね合いを今後とも検討していきたい。

「《ローマの景観》：ピラネージのまなざし」（常設展版画作品展）

方 針

西洋美術館が所蔵するピラネージの版画群のうち、これまで展示の機会に恵まれなかった「景観」作品群の概略展示と分析的展示を目的として、ピラネージ自身の芸術家としての想像力と建築家としての分析力の双方を理解できるように《グロッテスキ》《ローマの景観》《パエストゥムの古代遺跡の景観》の3連作に加え、100年ほど昔の別な作家の同一モチーフの版画作品数点を比較展示することで、ピラネージの特色ある視点を浮かび上がらせることを目的とした。

実 績

1. 開催期間 平成17年10月8日(土)～平成17年12月11日(日) (56日間)
2. 会 場 国立西洋美術館新館2階 第3展示室
3. 主 催 国立西洋美術館
4. 出品点数 45件
5. 入館者数 常設展会場内の版画素描展示室で開催した企画展示のため、入館者数の集計は行っていない。
6. 入場料金 常設展入場料金に含まれる。
7. 入場料収入 常設展入場料収入に含まれる。
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容
 ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージは、ヴェネツィアで学んだ後1740年にローマにやってきた。そして2代にわたるローマ教皇の庇護の下、建築家、考古学者としての目を持ちながら1743年以降、精力的に《ローマの景観》、《ローマの古代遺跡の景観》、《パエストゥムの古代遺跡の景観》等の連作を制作していった。今回は、西洋美術館が所蔵する作品の中から《ローマの景観》と《パエストゥムの古代遺跡の景観》を中心に、45点を展示した。
10. 広報
 インターネットホームページ、ポスター、国立西洋美術館ニュース等での情報提供を実施し、広報活動に努めたほか、展覧会場では、株式会社日立製作所の支援により、プラズマディスプレイ及びタッチモニタを設置し、ピラネージに関する情報提供を行った。
11. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【雑誌】

誌 名	掲載日	発 行	備 考
文化庁月報	2005.10.25	文化庁 / 編集 ぎよ うせい / 発行	10月号 P43 主任研究官 高梨光正 執筆

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今回の展示に際し、個性的な想像力をみせる《グロッテスキ》と他の建築景観連作群とを比較する一方で、同じ場所を他の作家が描いた作例と比較することで、ピラネージの視点の特殊性をつまびらかにすることができたほか、版画作品に記載されているピラネージの解説そのものと、現在の地理的な状況とを合わせた小解説を付けたことで、観覧者の理解の補助に非常に有益であった。また東京大学象形文化研究拠点と日立製作所開発センターの協力によって、東京大学象形文化研究拠点が作成したピラネージデータベースの大型モニタによる補助展示を行ったことにより、観覧者には各作品の歴史地理的な理解および版画作品の細部についての理解を深める一助となったことは、新たな取り組みとして有益であった。

【見直し又は改善を要する点】

展示作品の数が多くなってしまったため、全ての作品に解説をつけることができなかったことや、展示そのものが窮屈になってしまった点で、より良い展示環境構成についての課題を残した。また《ローマの景観》連

作展示では、当時のローマの景観よりも古代遺跡の景観が多数を占めた点で、18世紀のローマという歴史地理的視点を強調することができなかった。

今回試みた大型モニタによるピラネージデータベースの展示では、コンピュータ機材のトラブルが何度か発生した。今後はコンピュータ機材等を使用した展示の保守点検を行う際の参考としたい。

「芸術家とアトリエ」（常設展版画作品展）

方 針

芸術家たちが、まさに作品を作り出す現場であるアトリエは、「創造の秘密」を解き明かしてくれるものであるかのように人々の興味を惹きつけてきた。フランスでは、19世紀の前半より、芸術家のアトリエ訪問記や、アトリエの様子を表した版画が雑誌などのメディアに盛んに取り上げられるようになり、また一方では、アトリエにいる芸術家たちの姿が挿絵の対象ともされ、風刺画に取り上げられている。しかし、どちらも一般の人々がほとんど目にする事のないアトリエの情景が、作家や作品の意味を示してくるものとして、いかに人々の好奇心を刺激し続けてきたかを示していると言える。今回の展示は、19世紀フランスを中心に、国立西洋美術館に所蔵されている版画や雑誌によって、アトリエの情景と、それへの関心のありようを展覧しようという意図のもとに企画された。

実 績

1. 開催期間 平成18年3月7日（火）～平成18年6月4日（日）（79日間）
（うち平成17年度22日間）
2. 会 場 国立西洋美術館新館2階 第3展示室
3. 主 催 国立西洋美術館
4. 出品点数 22件
5. 入館者数 常設展会場内の版画素描展示室で開催した企画展示のため、入館者数の集計は行っていない。
6. 入場料金 常設展入場料金に含まれる。
7. 入場料収入 常設展入場料収入に含まれる。
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容
今回の展示は、19世紀フランスを中心に、国立西洋美術館に所蔵されている版画や雑誌によって、アトリエの情景と、それへの関心のありようを展覧するものである。これらの作品は、19世紀における人々の、芸術家のアトリエへの関心を教えてくれるとともに、また、今の私たちの好奇心をも刺激する。19世紀に芸術家たちはいったいどのようなアトリエで制作をしたのか。その制作の現場をご覧いただける展覧会となった。
10. 広報
インターネットホームページ、ポスター、国立西洋美術館ニュース等での情報提供を実施し、広報活動に努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

展覧会の自己点検評価については、来年度に行う。

【見直し又は改善を要する点】

「Fun with Collection 2005 いろいろメガネ Part1 あなたの見た教えてください」（子どもから楽しめる美術展）

方 針

Fun with Collection は、国立西洋美術館の所蔵作品を中心に、子どもから大人までを対象とする小企画展である。美術作品をより身近なものとして理解し、楽しんでもらうことを目的として、毎回テーマを設けて様々な切り口から美術作品を紹介している。

同じ作品でもテーマや視点を変えることによって、様々な見かた、楽しみかたがある。さらに言えば、鑑賞は本来自由で個人的な行為であり、十人十色というように、作品の見かた、感じかたも人の数だけ存在する。そこで、平成17年度のFun with Collectionでは、来館者それぞれの多様な作品の見かた・楽しみかたをテーマとした。

人は誰しも個人の経験や感情を基にして作品を鑑賞する。言葉を替えれば、人はそれぞれの「色眼鏡」を通して作品を見る、と言うこともできるかもしれない。「色眼鏡」は否定的な意味合いが強い言葉であるが、今回はそれを思い切り肯定的に使い、来館者各々の見かた、楽しみかたを「(色)メガネ」というキーワードで表現する。そして、個人の自由な鑑賞体験を個人の中で終わらせるのではなく、それぞれの「メガネ」を交換することで多様な作品の見かた、楽しみかたを分かち合うことを目的とし、さらに異なる価値や新しい意味が同じ作品の中に見えてくることを期待するものである。

実 績

1. 開催期間 平成17年7月1日(金)～平成17年12月27日(火)(155日間)
2. 会 場 国立西洋美術館
3. 主 催 国立西洋美術館
協 力 (財)西洋美術振興財団
4. 入館者数 Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず、常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、入館者数の集計は行っていない。
5. 入場料金 常設展入場料金に含まれる。
6. 入場料収入 常設展入場料収入に含まれる。
7. 担当した研究員数 4人(内、客員研究員1名)
8. 展覧会の内容
十人十色と言うように、美術館で作品を見て感じる事、思う事は一人一人が違う。今回のFun with Collectionは、人それぞれの作品の見かたや楽しみかた(「メガネ」)がテーマである。国立西洋美術館の常設展に来館される皆さんを主役として、それぞれの「メガネ」について考えたり、お互いに「メガネ」を交換したり、自分とは違う作品の見かた、感じかたを体験してみる。
9. 広報
インターネットホームページ、チラシ等での情報提供のほか、文部科学省を始めとした府省庁等が連携して実施する「こども見学デー」における関連イベントとして登録し、幅広い広報活動に努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

本企画は、平成17年度と来年度の2年度に渡るプログラムとして構成した。初年度となる平成17年度は、主に当館の来館者はどのようにコレクションを見ているのか、何を感じているのかを様々な方法(プログラム)で収集した。また、通常の場合、本企画は夏期に行っているが、今回は1年を通じて、コレクションを能動的に楽しむきっかけとなる様々なプログラムを実施した。「君の名は?」という作品に題名をつけるプログラムについては、実施している時から題名を記述したノートを見ることで他の人の考えを知ることができ、また「あなたがつづるこの1点」というエッセイのプログラムについては、平成17年度中にその結果をパネルや印刷物にして、常設展示室で来館者が読めるようにした。しかし、それ以外のプログラムの結果については、来年度に展示、印刷物、プログラムにして選

元する予定である。

これまでのように美術館が作品を見る視点を提供するのではなく、逆に利用者にそれを問うことで利用者が作品をより注意深く見て、それについて考える機会となった。また、他の人々がどのように感じ、考えたかを知ることによって、共感、あるいは新たな発見などを体験し、それが当館のコレクションをこれまで以上に身近なもの、印象深いものと感じることに繋がっていくものとする。

また、「日曜日の美術館」や「大講評会」など、様々な分野で活躍している方々が講師となったプログラムには、普段当館をあまり利用することのない人々が参加したことで、新たな利用者を開拓する機会ともなった。

【見直し又は改善を要する点】

プログラムの結果を還元する方法として、ホームページを更に活用して行う手法についても、今後検討をしていく必要があると考える。

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(共催展)

方 針

本展は、2003年度に購入・収蔵したばかりのラ・トゥールの作品《聖トマス》を広く公開する傍ら、この17世紀フランスが生んだ特異な美の世界を総合的に展覧しようという企画である。

本来、今に残る真作の数が40点余、という展覧会開催が難しい作家であるが、フランスをはじめとする世界各地の美術館の協力によって、その半数にのぼる20点あまりのオリジナル作品を集めることができた。これらに貴重な工房作や模作を加え、全34点で構成される、我が国初のラ・トゥール展である。国際的規模の展覧会に相応しく、ラ・トゥールの研究者として名高いジャン＝ピエール・キュザン元ルーヴル美術館絵画部長を共同コミッショナーに迎え、学術的な展覧会構成を試みている。それと同時に、一般に周知されているとは言えないこの画家に、より親しんでもらうために、会場のマルチメディアをはじめ、同時代の古楽器によるコンサートの開催など、様々な催しを実施する。

実 績

1. 開催期間 平成17年3月8日(火)～5月29日(日)(73日間)
(うち平成17年度52日間)
2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2～3階
3. 主 催 国立西洋美術館, 読売新聞社
後 援 文化庁, フランス大使館
協 力 日本航空, 西洋美術振興財団
マルチメディア協力 コーデックスイメージズインターナショナル, クインランド, 京都市立芸術大学, 三菱電機
4. 出品点数 34件
5. 入館者数 入館者数186,543人(目標入館者数94,000人)
3月8日からの総入館者数245,064人(目標入館者数130,000人)
6. 入場料金 当日券 一般1,100(800)円, 大学生750(410)円, 高校生650(350)円, 小中学生無料
割引券 一般1,000円, 大学生700円, 高校生600円
前売券 一般 900円, 大学生650円, 高校生550円
()内は20名以上の団体割引料金, 引率者は20人に対し1人の割合以内で無料
小中学校の教育活動としての観覧の場合は, 引率の教員についても無料
心身の障害者及び, その付添者は無料
7. 入場料収入 52,038,180円(3月8日からの総入場料収入68,722,710円)
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの現在まで残る真作の数が40点余, その作品数の少なさと重要性から, 借り出せる作品は自ずと限定されてしまう。しかし, 本展ではその全真筆のほぼ半数と, 若干の失われた原作の模作・関連作を含めた貴重な作品群が東京に顔を揃えることとなり, 日本で初の, そしておそらくは相当な長い将来に渡って再び見ることはできないラ・トゥールの展覧会を実現することができた。
10. 講演会等(会期中に7回開催予定, うち平成17年度は5回)
5回 参加人数696人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
スライドトーク等
5回 参加人数532人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)
イヤホンガイドの実施
利用者数24,195人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)
(3月8日からの利用者総数31,988名)
11. 広報
共催者と連携し, 新聞, 雑誌, 交通広告, インターネットホームページ, DM, チラシ等による幅広い情報の発信と, 上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示, チラシの配布, インター

ネットホームページ(国立西洋美術館,読売新聞社の各ホームページ)への割引引換券掲載,書店を通じての割引引換券の配布,台東区教育委員会を通じての台東区内小・中学校への展覧会情報,小・中学生観覧料金無料化のPRを実施した。

特記事項

平成17年5月2日(月)を臨時に開館し,入館者の利便性の向上に努めた。

マルチメディアによる情報コーナーを設置(PC 端末設置,DVD によるデジタル検索,映像の上映)

フランスの人気古楽アンサンブル「ル・ポエム・アルモニーク」によるコンサート「ラ・トゥールの聴いた響きをもとめて」を開催した。ラ・トゥールの絵に描かれている楽器(ヴィエル)等を用い17世紀当時の古謡を再現。集まった約100人の観客は,名画と音楽でラ・トゥールの世界を楽しんだ。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等(全341件:以下主要な記事等を抜粋)

【新聞】

誌名	掲載日	発行	備考
産経新聞	2004/12/5	産経新聞社	26面
読売新聞	2004/12/8	読売新聞社	1面
読売新聞	2004/12/16	読売新聞社	樺山紘一前館長執筆
読売新聞	2005/1/1	読売新聞社	4-5面 美の再発見 高橋明也執筆
読売新聞	2005/1/18	読売新聞社	37面
読売新聞	2005/1/26	読売新聞社	18面
読売新聞	2005/1/30	読売新聞社	生活ノオト LIFE STYLE
日経新聞(朝刊)	2005/2/19	日本経済新聞社	42面
日経新聞(夕刊)	2005/2/28	日本経済新聞社	16面
聖教新聞	2005/2/28	聖教新聞社	7面
読売新聞	2005/3/1	読売新聞社	1面
読売新聞	2005/3/2	読売新聞社	30面
読売新聞	2005/3/8	読売新聞社	37面
読売新聞	2005/3/9	読売新聞社	1面
読売新聞(夕刊)	2005/3/9	読売新聞社	1面・ラ・トゥール展から2
中日新聞	2005/3/10	中日新聞社	週末ガイド
読売新聞(夕刊)	2005/3/10	読売新聞社	1面・ラ・トゥール展から3
読売新聞(夕刊)	2005/3/11	読売新聞社	1面・ラ・トゥール展から4
読売新聞(夕刊)	2005/3/15	読売新聞社	4面
読売新聞(夕刊)	2005/3/23	読売新聞社	12面
東京新聞	2005/3/24	東京新聞社	26面
しんぶん 赤旗	2005/3/25		
読売新聞	2005/3/28	読売新聞社	29面 どれどれどーれ
読売新聞	2005/3/30	読売新聞社	14面 シティライフ
インターナショナルプレス	2005/4/2	(株)インターナショナルプ	1面
朝日新聞	2005/4/6	朝日新聞社	美の現在 高階秀爾氏執筆 12面,
読売新聞(夕刊)	2005/4/6	読売新聞社	シティライフ(8面) ジョルジュ・ド・ラ・トゥー
公明新聞	2005/4/12	公明新聞社	美術
読売新聞(夕刊)	2005/4/13	読売新聞社	シティライフ ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展4
朝日新聞	2005/4/14	朝日新聞社	
産経新聞	2005/4/15	産業経済新聞社	文化
読売新聞(夕刊)	2005/4/15	読売新聞社	17面 音楽会
読売新聞(夕刊)	2005/4/20	読売新聞社	16面

読売新聞(夕刊)	2005/4/20	読売新聞社	16面
読売新聞	2005/4/21	読売新聞社	私の好きなラ・トゥール ㊤ 28面
朝日新聞マリオン(夕刊)	2005/4/21	朝日マリオン 21	美・博ピックアップ
読売新聞	2005/4/21	読売新聞社	私の好きなラ・トゥール ㊤ 30面
読売新聞(夕刊)	2005/4/22	読売新聞社	18面 皇后さま行啓記事
読売新聞	2005/4/23	読売新聞社	私の好きなラ・トゥール ㊤ 32面
読売PR	2005/4/24	読売新聞社	
毎日新聞(夕刊)	2005/4/25	毎日新聞社	6面 現代アート考
日本経済新聞	2005/4/27	日本経済新聞社	アートの情景
読売新聞(夕刊)	2005/4/30	読売新聞社	7面
読売新聞	2005/5/1	読売新聞社	28面 試写室
読売ウィークリー	2005/5/1	読売新聞社	5/8・15号
毎日新聞	2005/5/11	毎日新聞社	今週の1点
読売新聞(夕刊)	2005/5/12	読売新聞社	18面 紀宮様お成り
読売新聞	2005/5/13	読売新聞社	28面 ラ・トゥール展記念コンサート
読売新聞(夕刊)	2005/5/16	読売新聞社	18面 皇太子さまお成り
読売新聞	2005/5/17	読売新聞社	37面 閉幕迫る

【雑誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
Bon Voyage		Air France Japon	2004夏号 Mai Juin Juillet P38-45
芸術新潮	2004/7/1	新潮社	7月号 P123
月刊新松戸		(有)ファクトリィ	2004年12月号 ミュージアム・クリスマス案内
ザ・ファミリー	2004/12/10	(株)ファミリー	ミュージアムニュース ミュージアム・クリスマス案内
週刊新潮		新潮社	1月13日号 P42
ネットワークあさひ	2005/2/1		4面(荒川・台東配布)
アトレ駅パラ	2005/2/1	アトレ上野	
文化庁月報	2005/2/1	ぎょうせい	P44
Sign & Displays	2005/2/10	マスコミ文化協会	
美術の窓	2005/2/20	生活の友社	2月号
京成ライン	2005/2/25	京成エージェンシー	P7
芸術新潮	2005/3/1	新潮社	3月号 ラトゥール特集
THE BVLINGTON MAGAGINE	2005/3/1		
Weekly Matsuzakaya	2005/3/1		
協同組合通信	2005/3/3	協同組合通信社	雑誌・他
東京上野ロータリークラブ週報	2005/3/14	東京上野ロータリークラブ	大谷公美氏執筆
文教速報	2005/3/16	官庁通信社	P8 開会式
文教速報	2005/3/18	官庁通信社	P15 遠山元文部科学大臣が鑑賞
Visita 東京 2005	2005/4/1	JTBパブリッシング	P132
現代押花	2005/4/1	財団法人中山文甫会館	P52 - 53
arch	2005/4/1	アート・コレクションハウス	展覧会ニュース
新美術新聞	2005/4/1	(株)美術年鑑社	2面
		(株)サロン・ド・ボザ	

		ール	
月刊消費者	2005/4/1	(財)日本消費者協会	4月号
マナビィ	2005/4/1	ぎょうせい	No.46 P52
ステラ	2005/4/6	ステラ編集部	5/6月号
アートマインド	2005/4/10	(株)ジャパンアート社	ART EXHIBITIONS
LIVING design	2005/4/10	(株)リビングデザインセンター	5月号 ART & Exhibition あの展覧会のこの1点
春びあ 首都圏版	2005/4/20	株式会社ぴあ	P101
一枚の絵	2005/4/21	一枚の絵(株)	Television
ステラ	2005/4/30	ステラ編集部	5/6号
月刊ギャラリー	2005/5/1	ギャラリーステーション	展覧会インタビュー(主任研究官 高橋明也)
美術の窓	2005/5/1	生活の友社	視点 主任研究官 高橋明也執筆
日経おとなのOFF	2005/5/6	日経ホーム出版社	6月号
Art Journal	2005/5/15	(株)アートジャーナル社	NEWS & SPOT
Univers Des Arts	2005/5/20	(株)アートコミュニケーション	特集 ジョルジュ・ドラ・トゥール

【広報誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
竹の塚百景	2005/4/1	キヌタ企画	耳よりタウン情報
ゴールデン・ライフ	2005/4/10	(株)ユニバーサル・ゴールデン・ライフ	春号
メトロミニッツ	2005/4/20	スターツ出版(株)	4/20号
キリスト新聞	2005/4/23	キリスト新聞社	4面 展覧会
メディカルQOL	2005/4/25	(株)マネージ・ド・ケア・ジャパン 5月号	5月号
J SELECT Magazin	2005/4/25	(株)ビジネスワールド社	5月号
マンスリーみつびし	2005/4/26	マガジンハウス	5月号 Event
JICA TOKYO Monthly	2005/4/28	(財)日本国際協力センター	5月号 MUSEUM SCHEDULE
ノッチェシティ	2005/5/13	ワンツーマガジン社	5/13号
文教速報	2005/5/27	官庁通信社	皇太子殿下・清子内親王殿下 ご鑑覧記事
文教速報	2005/6/6	官庁通信社	入館者数 20万人突破記事

【テレビ・ラジオ放送】

番組名	放送日	制作	備考
NHK/BS週間シティー情報	2005/4/2	NHK BS1	
自由時間	2005/4/3	(株)エフエム世田谷	
TOKYO モーニングサプリ	2005/4/7	東京MXテレビ	
art lover	2005/4/8	日本テレワーク(株)	
		葛飾エフエム放送	

		(株)	
エフエムうらら	2005/4/14	エフエム浦安(株)	2005/4/14,21,28,5/5,12 放送
NHK/ラジオ深夜便	2005/4/14	NHK	
パレットに絵の具	2005/4/15	エフエム江戸川	
NHK/新日曜美術館	2005/5/1	NHK	

【ネット関連(web)】

掲 載	掲載日	制 作	備 考
ルーヴル美術館オフィシャルサイト	2005/4/25	(株)フォアキャスト・コミュニケーションズ	携帯公式サイト

13. アンケート調査

調査期間 (抽出アンケート調査)

平成17年4月28日(木)～5月1日(日)(4日間)

(任意アンケート調査)

平成17年3月8日(火)～5月29日(日)(73日間)

調査方法 (抽出アンケート調査方法)

展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券などを進呈して、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

(任意アンケート調査方法)

お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施した。

アンケート回収数 1,386件(抽出400件,任意986件)

アンケート結果

・大変良い25.83%(358件)・良い41.13%(570件)・まあまあだった9.74%(135件)

・あまり良くなかった0.22%(3件)・良くなかった0.79%(11件)・無回答22.29%(309件)

自己点検評価

【良かった点,特色ある取組み】

最終的には当初の予想を大きく上回る245,064人(73日間)の入館者を集め、また各方面から多大な反響を得ることができた。これまで、知名度が決して高いとは言えなかったオールドマスターの作家の展覧会がこれ程の成功裡に終わったことは、今後の国立西洋美術館、ひいては我が国の美術館の展覧会開催に対し、ひとつの方向性を与えることができたと考える。

【見直し又は改善を要する点】

展覧会に付随する7回に及ぶ連続講演会、マルチメディアコーナーや図書閲覧コーナーの設置、海外からのアーティスト招聘による音楽会等の新たな企画の試みはいずれも好評を博したが、それらの企画の開催に、美術館側のノウハウの面での不足は否めない。今後このような企画を試みる場合には、それに見合うだけの準備期間及び資金等の用意が必要と考える。

「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」(共催展)

方 針

ドレスデン国立美術館は、1972年に当館で展覧会を開催して以来、最も友好的な美術館の一つである。過去に3度、展覧会を開催しているが、今回は「日本におけるドイツ年」の主要催事として11の全美術館挙げての記念すべき展覧会となるよう、これまでにない規模を目指した。ただし、いわゆる名品展のような「寄せ集め展」ではなく、ドレスデンという都市の特徴を明らかにするようなテーマ展としたかった。そのために展覧会の主題をドレスデンのコレクションの成立にかかわる国際交流に定め、文化の十字路口としてのドレスデンを描き出すことにした。では、ドレスデンのコレクションを特徴づける異国文化とはどのようなものなのだろうか。それは、現在もドレスデンに所蔵される豊富な到来品を観察することにより次の国々が自ずと浮かび上がってくる。ヨーロッパからはイタリア、フランス、オランダの3国。アジアからはトルコ、中国、日本の3国である。計6つの国々の文化がドレスデンのコレクションの核を形成している。展覧会は、異文化受容の受け皿となったルネサンス後期のドレスデン宮廷に作られた美術館の前身「驚異の収集室(ヴンダーカンマー)」から始め、そこでの珍奇なものの収集が次第に美術品の収集へと移り「美術収集室」へと変わって行く様子を再現することにした。そして上記の6カ国の文化受容とその消化をセクションに分けて見せていくことにしたのである。

展覧会の題名を「世界の鏡」としたのは、ドレスデンの宮廷が中心となって集められた世界の品々からなるコレクション自体が、異文化を受容する「世界を映し出す鏡像」であること、同時に、ドレスデンから世界に向かって発信される「鏡の映し返し」のようなドレスデンという町の影響力を象徴させることを意図した。つまり、この展覧会の目的は、ドレスデンという都市の全貌を歴史的コレクションを通して視覚化することなのである。

実 績

1. 開催期間	平成17年6月28日(火)～9月19日(月)(74日間)
2. 会 場	国立西洋美術館企画展示館 地下2～3階
3. 主 催	国立西洋美術館, 日本経済新聞社
後 援	外務省, 文化庁, ドイツ連邦共和国大使館, 東京ドイツ文化センター, (社)日本ユネスコ協会連盟
特別協賛	NEC
協 賛	AGC 旭硝子株式会社, KDD, 昭和シェル石油株式会社, DNP 大日本印刷, 日本興亜損保, FUJIFILM, 三井物産
協 力	Lufthansa, Lufthansa Cargo, 日本通運, JR 東日本, 西洋美術振興財団
4. 出品点数	240件
5. 入館者数	286,330人(目標入館者数211,000人)
6. 入場料金	当日券 一般1,400(1,000)円, 大学生1,000(560)円, 高校生800(450)円, 小中学生無料 割引券 一般1,300円, 大学生900円, 高校生750円 前売券 一般1,200円, 大学生800円, 高校生700円 ()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料 小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料 心身の障害者及び、その付添者は無料
7. 入場料収入	66,334,350円
8. 担当した研究員数	2人
9. 展覧会の内容	本展は16世紀から19世紀のドレスデンにおける芸術潮流に焦点を合わせ、絵画、彫刻をはじめ、宝飾品や衣装、家具・工芸品などの多彩な作品により、日本で初めてドレスデン国立美術館のコレクションの全貌を紹介するものである。
10. 講演会等	4回 参加人数382人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) スライドトーク等 6回 参加人数629人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)

展覧会に関連する音楽プログラム

1回 参加人数100人(詳細は「教育普及」展覧会に関連する音楽プログラム欄へ)
 イヤホンガイドの実施
 利用者数45,349人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)

11. 広報

共催者と連携し、新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ、アドカードDUE等による幅広い情報の発信と、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布等の広報を行った。また、インターネットホームページ(国立西洋美術館、日本経済新聞社の各ホームページ)への割引引換券の掲載を行うなど積極的な広報活動を実施した。

特記事項

平成17年8月15日(月)及び9月19日(月)を臨時に開館し、入館者の利便性の向上に努めた。
 日本経済新聞社特別鑑賞会を実施(平成17年8月29日(月)及び9月7日(水))
 展覧会開催記念シンポジウム「世界の鏡～デジタル技術が支える人類の記憶継承システム-ドレスデン聖母教会の復活とドレスデン国立美術館・博物館機構(SKD)の新たな挑戦-」を、慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構・国立西洋美術館・日本経済新聞社の主催により開催(平成17年7月29日(金))会場:慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール
 展覧会開催記念「ドキュメンタリー映画「オランダの光」特別上映&トークショー」を実施(平成17年8月16日(火)/18日(木)/20日(土)/23日(火)、トーク(23日):小林頼子氏(目白大学教授・オランダ美術史)、青柳正規(国立西洋美術館長))

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

誌名	掲載日	発行	備考
日経新聞	2004/5/12	日本経済新聞社	38面
日本経済新聞	2005/2/7	日本経済新聞社	1面
THE DAILY YOMIURI	2005/3/24	読売新聞社	18面 ART
聖教新聞	2005/3/30	聖教新聞社	8面
日本経済新聞	2005/4/7	日本経済新聞社	38面
日本経済新聞	2005/4/27	日本経済新聞社	名画のドラマ 上 文化40面
日本経済新聞	2005/4/28	日本経済新聞社	名画のドラマ 中 文化44面
日本経済新聞	2005/4/29	日本経済新聞社	名画のドラマ 下 文化40面
毎日新聞(夕刊)	2005/5/18	毎日新聞社	西洋の「美術館展」が相次ぐわけ
日本経済新聞	2005/6/13	日本経済新聞社	日本におけるドイツ年 2005/2006
日本経済新聞	2005/6/18	日本経済新聞社	アトラライフ 32面
日本経済新聞(夕刊)	2005/6/27	日本経済新聞社	18面
日本経済新聞(夕刊)	2005/6/28	日本経済新聞社	42面
産経新聞	2005/7/12	産経新聞社	20面
日本経済新聞(夕刊)	2005/7/12	日本経済新聞社	至高の一点 1面
日本経済新聞(夕刊)	2005/7/13	日本経済新聞社	至高の一点 1面
日本経済新聞(夕刊)	2005/7/14	日本経済新聞社	至高の一点 1面
東京新聞	2005/7/14	東京新聞社	24面 今週の1点
日本経済新聞(夕刊)	2005/7/15	日本経済新聞社	至高の一点 1面
日本経済新聞	2005/7/16	日本経済新聞社	アトラライフ 28面
日本経済新聞(夕刊)	2005/7/22	日本経済新聞社	22面 皇太子様鑑賞記事
日本経済新聞(夕刊)	2005/7/25	日本経済新聞社	2面 特別鑑賞会のお知らせ
日本経済新聞(夕刊)	2005/7/25	日本経済新聞社	14面 特集
聖教新聞	2005/7/25	日本経済新聞社	42面 10万人突破
読売新聞(夕刊)	2005/7/28	読売新聞社	4面 美術

読売新聞(夕刊)	2005/7/28	読売新聞社	4面 美術
日本経済新聞	2005/8/2	日本経済新聞社	1面 春秋
日本経済新聞	2005/8/20	日本経済新聞社	アートライフ 32面
日本経済新聞(夕刊)	2005/8/22	日本経済新聞社	14面 特集
朝日新聞	2005/8/26	朝日新聞社	6面 一点逸点
朝日新聞(夕刊)	2005/8/30	朝日新聞社	18面
毎日新聞(夕刊)	2005/8/31	毎日新聞社	28面
THE DAILY YOMIURI	2005/8/31	読売新聞社	7面
日本経済新聞(夕刊)	2005/9/7	日本経済新聞社	16面 こだわりの巡礼

【雑誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
Signs displays	2005/2/1	マスコミ文化協会	No.542 歳事情報
美術の窓	2005/2/20	生活の友社	P37
Visita 東京	2005/4/1	JTBパブリッシング	P132
Dental Tribune off time	2005/4/1	株式会社メディカルトリビューン	P5
MONICA	2005/6/1	ぶんか社	ART
旅行読売	2005/7/1	旅行読売出版社	P136
Noblesse ノーブレス	2005/7/1	株式会社ノーブレス	アートな発見
Signs displays	2005/7/1	マスコミ文化協会	No.547 歳事情報
Cabi ネット	2005/7/1	社団法人 時事画報社	No.77
THE BVRLINGTON MAGAZINE	2005/7/1		
東京ウォーカー	2005/7/5	KADOKAWA	P225
美術の窓	2005/8/1	生活の友社	P37
和楽	2005/8/1	小学館	レクチャーコンサートの案内 P18-19
美術の窓	2005/9/1	生活の友社	P197
荻窪百点	2005/9/1	荻窪百点	P62-63
CURIO	2005/9/1	フジ・インターナショナル・ミント株式会社 9月号	9月号

【広報誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
文化庁月報	2005/6/1		P43 主任研究官 佐藤直樹執筆
日刊 協同組合通信	2005/6/9		P10
東京上野ロータリークラブ週報	2005/6/27	(株)マネージ・ド・ケア・ジャパン 5月号	落合桃子氏 執筆
JICA TOKYO Monthly	2005/7/28	(財)日本国際協力センター	7月号 MUSEUM SCHEDULE
文芸広場	2005/8/1	第一法規株式会社	8月号
文教速報	2005/8/3	官庁通信社	皇太子殿下 ご鑑覧記事
文教速報	2005/8/10	官庁通信社	入館者数 10万人突破記事
文教速報	2005/9/5	官庁通信社	入館者数 20万人突破記事

【ネット関連 (web)】

掲 載	掲載日	制 作	備 考
NIKKEI NET	2005/2/1	日本経済新聞	EVENT GUIDE
三井物産の CSR	2005/6/21	三井物産株式会社	

13. アンケート調査

調査期間 (抽出アンケート調査)

平成17年8月18日(木)～8月21日(日)(4日間)

(任意アンケート調査)

平成17年6月28日(火)～9月19日(月)(74日間)

調査方法 (抽出アンケート調査方法)

展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券などを進呈して、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

(任意アンケート調査方法)

お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施した。

アンケート回収数 2,007件(抽出400件,任意1,607件)

アンケート結果

・大変良い19.18%(385件)・良い31.24%(627件)・まあまあだった10.71%(215件)

・あまり良くなかった0.1%(2件)・良くなかった1.4%(28件)・無回答37.37%(750件)

自己点検評価

【良かった点, 特色ある取組み】

ドレスデン国立美術館の全面的な協力により、コンセプトに添うかたちで全て第一級の出品作を揃えることができたため、新聞、雑誌などのメディアを中心に展覧会に対する評価を得る事が出来た。一般の方々にも企画、出品作品ともに評判で、会期終盤に向け、インターネット上のブログ等でも取り上げられ、口コミで人気が上がっていったと考える。

展覧会企画に添うかたちで計画されたコンサート「オスマン・トルコへの恐怖と憧憬・帝国拡張がもたらした音楽文化の多様性」は、東京芸大の瀧井氏によるプログラムで、トルコ軍隊楽器の解説やトルコ音楽の西洋音楽への影響、そしてベリーダンスなどの実演を伴う企画は、当館の特色あるプログラムを表わすものとなった。

【見直し又は改善を要する点】

予想以上の方が訪れたため、マイセン磁器と日本の磁器の展示ケース付近が混み合い、鑑賞に不便な状況となってしまった。さらなる会場構成の工夫が必要であると考え。また、会場に比して出品作品が多すぎた点や、来館者の作品への接触も少なくなかったことから、今後も、鑑賞の際のマナーについての理解や、注意を喚起する働きかけを続けていく必要があると考える。

「キアロスクーロ -ルネサンスとバロックの多色木版画 フリッツ・ルフト・コレクションの所蔵作品による」(自主企画展)

方 針

本展覧会は特に、これまでほとんど紹介されることのなかったキアロスクーロ木版画を取り上げ、その技法や表現方法を紹介すること、また、キアロスクーロ木版画に関する最新の知見を紹介することを目的として開催された。そのため、会場では時代ごと、地方ごとに版画をまとめて展示した。

同時に、当時の美術において版画が果たした役割を紹介すること、また、我が国の多色浮世絵木版画と根本的には同じ技法によって作られたキアロスクーロ木版画を展示することによって、西洋美術の独自性を明らかにすることをも目指した。

実 績

1. 開催期間 平成17年10月8日(土)～12月11日(日)(56日間)
2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階
3. 主 催 国立西洋美術館/クストディア財団/(財)西洋美術振興財団
- 助 成 (財)東芝国際交流財団/(財)UFJ信託文化財団
- 協 力 日本航空/アムステルダム国立美術館
4. 出品点数 112件
5. 入館者数 30,176人(目標入館者数30,000人)
6. 入場料金 当日券 一般850(600)円,大学生450(250)円,高校生250(100)円,小中学生無料
割引券 一般800円,大学生400円,高校生200円
前売券 一般700円,大学生350円,高校生150円
()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても入場無料
心身の障害者及び、その付添者は無料
7. 入場料収入 14,453,250円
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
本展は、版画・素描コレクションで名高いパリのクストディア財団(フリッツ・ルフト・コレクション)が所蔵する110点の作品に、アムステルダム国立美術館が所蔵する2点の作品を加えた計112点によって、キアロスクーロ木版画の流れを概観するものであり、日本では初の試みとなる展覧会であった。
10. 講演会等
4回 参加人数162人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
スライドトーク等
5回 参加人数120人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ)
11. 広報
新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、チラシ等による幅広い情報の発信と、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布、季刊誌「版画芸術」への広告掲載を行った。また、その他にも第47回「教育・文化週間」(平成17年11月1日～7日)における関連行事として登録を受けたほか、入場料の割引料金を設定し、インターネットホームページ(国立西洋美術館)へ割引換券掲載を行うなどして積極的な広報活動を実施した。
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

誌 名	掲載日	発 行	備 考
The Asahi Shimbun	2005/8/19	朝日新聞社	28面
朝日新聞(夕刊)	2005/8/25	朝日新聞社	10面

朝日新聞	2005/10/1	朝日新聞社	29面
新美術新聞	2005/10/1	(株)美術年鑑社	美術館・ギャラリーガイド11面, TVガイド9面
日本経済新聞(夕刊)	2005/10/3	日本経済新聞社	タウンビート アート・カルチャー14面
朝日新聞	2005/10/7	朝日新聞社	39面 いよいよ開幕
読売新聞	2005/10/7	読売新聞社	39面 いよいよ開幕
上毛新聞	2005/10/7	上毛新聞社	30面
聖教新聞	2005/10/8	聖教新聞社	9面
中日新聞	2005/10/13	中日新聞社	9面 週末ガイド
しんぶん赤旗	2005/10/17		9面
東京新聞	2005/10/20	東京新聞社	22面
毎日新聞(夕刊)	2005/10/26	毎日新聞社	25面 美術館ガイド
朝日新聞	2005/10/29	朝日新聞社	37面
読売新聞(夕刊)	2005/11/9	読売新聞社	10面
DAYLY YOMIURI	2005/11/30	読売新聞社	7面
公明新聞	2005/12/6	公明新聞社	5面
朝日新聞(夕刊)	2005/12/22	朝日新聞社	6面(読者感想)

【雑誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
版画芸術		安部出版	No.129 保井亜弓氏 執筆
美術の窓	2005/11/1	生活の友社	展覧会情報
Art Journal	2005/11/1	(株)アートジャーナル社	NEWS & SPOT
美術の窓	2005/12/1	生活の友社	展覧会情報 NO.267
一枚の絵	2005/4/21	一枚の絵(株)	Television
月刊ギャラリー	2005/5/1	ギャラリーステーション	展覧会インタビュー(主任研究官 高橋明也)
美術の窓	2005/5/1	生活の友社	視点 主任研究官 高橋明也執筆
Art Journal	2005/5/15	(株)アートジャーナル社	NEWS & SPOT
Univers Des Arts	2005/5/20	(株)アートコミュニケーション	特集 ジョルジュ・ド・ラ・トゥール
俳句	2005/9/1	角川書店	9月号 俳壇ニュース
RYUSEI	2005/9/1	社団法人龍生華道会	No.545 P14
白い国の詩	2005/9/1	(株)創童舎	9月号
エレクトーン	2005/9/20	ヤマハ・ミュージック・メディア	9月号
文化庁月報	2005/9/25	ぎょうせい	P44
日経マスターズ	2005/10/1	日経BP社	10月号 No.40
マナビィ	2005/10/1	ぎょうせい	文部科学省 編
うえの	2005/10/1	うえののれん会	No.558
パン・ニュース	2005/10/5	(株)パン・ニュース社	17面 舟田詠子氏講演会のお知らせ
公募ガイド	2005/10/9	(株)公募ガイド社	10月号 vol.230
Signs & Displays	2005/10/10	マスコミ文化協会	No.550 催事情報
ART MIND	2005/10/10	ジャパンアート社	秋季号 No.141
月刊 展覧会ガイド(首都圏)		東京アートナビ	10月号
ケイコとマナブ 首都圏版	2005/10/25	RECRUIT	11月号
スケルトンメイト&アロークロス	2005/11/1	(株)マガジンマガジン	11月号 クロスワード編集部

白い国の詩	2005/11/1	(株)創童舎	11月号
ポポロ	2005/12/1	麻布台出版社	12月号
Gallery	2005/12/1	ギャラリーステーション	12月号 Vol.248
Bon Voyage	2005/冬号	(株)アシェット婦人画報社	Novembre Decembre

【広報誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
PLAZMA	2005/10/1	株式会社芸術生活社	プラズマ編集部 10月号 EVENT
京成らいん	2005/9/1	京成電鉄(株)	vol.575
ぱど	2005/9/9	株式会社ぱど	No.853
TICKET CLASSIC	2005/9/25	株式会社クラシック・ジャパン	10月号 美術館情報
arch	2005/10/1	アート・コレクションハウス	全国美術館スケジュール
東京メトロ	2005/10/1	東京メトロ	紅葉散歩&ミュージアムめぐり
Koala Fan	2005/10/1	(株)コアラテレビ	10月号
シティリビング	2005/10/7	サンケイリビング新聞社	シティ事業本部
TICKET CLASSIC	2005/10/15	株式会社クラシック・ジャパン	11月号 美術館情報
美じょん新報	2005/10/20	(株)ビジョン企画出版社	第73号8面
J SELECT	2005/11/1	(株)ビジネス・ワールド社	No.11 CALENDAR-TOKYO
月刊新松戸	2005/11/1	(有)ファクトリィ	No.317
荻窪百点	2005/11/1	荻窪百点	No.246
TICKET CLASSIC	2005/11/15	株式会社クラシック・ジャパン	12月号 美術館情報
朝日カルチャーセンター		朝日カルチャーセンター	2006年1月期 東京
シティリビング	2005/11/11	サンケイリビング新聞社	シティ事業本部
Mullion・Coupon		朝日新聞社	vol.12 9月号
マリオン ASA		朝日新聞社	vol.35 9月号

【ネット関連(web)】

掲載	掲載日	制作	備考
美術館.com		株式会社日本スタジオ	
インターネット・ミュージアム		インターネット・ミュージアム	
朝日カルチャーセンター		朝日カルチャーセンター 新宿教室	ニュース&トピックス
Art Navi		株式会社美術出版社	Iモード 情報サイト

13. アンケート調査

調査期間 (抽出アンケート調査)

調査方法	平成17年11月24日(木)～11月27日(日)(4日間) (任意アンケート調査)
	平成17年10月8日(土)～12月11日(日)(56日間) (抽出アンケート調査方法) 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券などを進呈して、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。
	(任意アンケート調査方法) お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施した。
	アンケート回収数 516件(抽出300件,任意216件)
	アンケート結果 ・大変良い22.87%(118件)・良い47.67%(246件)・まあまあだった8.72%(45件) ・あまり良くなかった0.19%(1件)・良くなかった0.78%(4件)・無回答19.77%(102件)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

キアロスクーロ木版画というジャンルの作品は、これまで日本でまとまった形で紹介されることはなかったものである。それゆえ本展では、この技法がどのようにして生まれ、発展し、終焉を迎えたのかを示すことに意を配した。

展示会場では、時代ごと、地方ごとに作品をまとめて展示することによって、技法の伝播や発展を分かりやすく示した。また、工夫をこらしたパネルによって技法を説明し、さらにはインターンの協力を得て、キアロスクーロ木版の原理を実際に体験できるスタンプを作り、会場で来館者が自ら「作品」を制作できるコーナーを設けた。もう一点本展に特徴的な試みは、すべての出品作品に作品解説パネルを付したことである。これは、展示品の多くが宗教や神話の世界を画像化したものであったため、作品が物語る内容を簡潔に伝える必要があるのではないかと考えた結果である。実際に会場を見回してみると、かなり多くの来館者が注意深くこれらのパネルを読み、時にはメモを取っていた。また、来館者アンケートを読んでも、こうした我々の努力は好評であったことがうかがえた。このような結果から、多くの来館者は漫然と作品を眺めるのみでなく、積極的に作品を理解しようとする姿勢を持っていることが明らかになったのではないかと考える。

もっとも、本展は専門的な知識を持った来館者にも十分に見応えのあるものであったことは間違いのない。幾人かの版画研究者や版画家から、非常に刺激的な展覧会だったとの評価をいただいた。また、同時期に千葉市美術館で開催された「ミラノ展」のために来日したミラノ市立版画館の研究員は、わざわざ本展を訪れ、さらには大変好意的な手紙を残していかれた。

本展の学術性は、カタログにも反映されている。オランダの美術史家エリック・ヒンテルディング氏の協力のもと、最新の研究動向を反映させることに努めており、現在においてキアロスクーロ木版画に関する文献としては、最も優れたものとする。また、巻頭エッセイのひとつで浮世絵版画との比較を論じることによって、西洋の造形論理の独自性についての知見も深めることができた。カタログには同時に、一般の美術ファンにとっても親しめるように、当時の美術や版画を巡る状況を平易に記したコラムも多数挿入した。

その他の取組みとして、ギャラリートークと記念講演会を行った。全回の記念講演会に出席した方も多く、版画愛好家の間での関心の高さを実感した。

【見直し又は改善を要する点】

キアロスクーロという言葉が聞き慣れないものであったため、「どのような展覧会なのか良く分からない」という意見があった。来館者を呼び込むという面での目的においては、「キアロスクーロ」というタイトルは有効ではなかったのではないかと考えられる。今後の課題として検討したい。

「ロダンとカリエール」(共催展)

方 針

作品に強い個性を示し、歴史に名を刻まれる芸術家であっても、必ずしもその表現や思想は一人の人間のなかだけで形成されるものではなく、周囲の芸術的環境、社会的環境が作用していることを、今回の展覧会では示すこととなった。芸術家の名前は、19世紀フランスを代表する彫刻家オーギュスト・ロダンと同時代の画家ウジェーヌ・カリエール。とくにロダンについては最も知られる近代の彫刻家の一人であり、歴史のなかで孤高の芸術家というイメージが形成されてきた。今回、ロダンの作品をカリエールの作品と並置し、両者の思想を同時代の批評とともに検証していくことにより、あらためてその作品を見直し、創作活動を組み直すこととなった。他方のカリエールについては、19世紀末の高い評価と影響力にもかかわらず今日では埋もれた存在となり、ようやく近年再評価されてきた画家である。両者は個人的に近い存在であっただけでなく、作品の表現方法や思想においていくつかの共通の土台の上に立っていた。そのことを示すために、展覧会ではまずロダンとカリエールの肖像作品から、二人に共通のモデルたちを選びだし、彼らをとりまく知的環境を示した。続いて、両者の造形上の共通性をいくつかのグループにまとめながら提示することとし、量塊としてとらえられた人物群、背景と人物像の境界、ユゴーを中心とした文学作品からの啓示、形の反復、手やトルソの意味などの問題を、両者の作品を結びつけるグループとして掲げた。これらの造形上の類似性は、同時代の象徴主義の批評家たちの間で繰り返し言及された点でもあり、結果としてこの二人の芸術家を象徴主義の枠組みでとらえることとなった。

国立西洋美術館においては、ロダンとカリエールの作品は松方コレクションの一部をなしており、本展を通じて松方コレクションの特色の一部を探ることも一つの意図であった。

実 績

1. 開催期間	平成18年3月7日(火)～6月4日(日) (79日間) (うち平成17年度22日間)
2. 会 場	国立西洋美術館企画展示館 地下2～3階
3. 主 催	国立西洋美術館、毎日新聞社、TBS
企画協力	オルセー美術館/ロダン美術館
後 援	外務省/文化庁/フランス大使館
協 賛	大日本印刷
協 力	西洋美術振興財団
4. 出品点数	136件
5. 入館者数	26,109人(目標入館者数117,000人(うち平成17年度中は26,000人))
6. 入場料金	当日券 一般1,300(950)円, 大学生900(510)円, 高校生800(450)円, 小中学生無料 割引券 一般1,200円, 大学生850円, 高校生750円 前売券 一般1,100円, 大学生800円, 高校生700円 ()内は20名以上の団体割引料金, 引率者は20人に対し1人の割合以内で無料 小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料 心身の障害者及び、その付添者は無料
7. 入場料収入	6,589,350円
8. 担当した研究員数	2人
9. 展覧会の内容	今回の展覧会では、ロダンとカリエールの彫刻、絵画、素描、版画136点を5つのセクションに分け、さまざまな角度からその関係性を読みといていく。ロダンとカリエールのふたりに焦点を絞った展覧会は、世界的に見てもこれまで例がなく、フランス世紀末、象徴主義という枠組みでロダンとカリエールの作品をとらえ直す、またとない機会となった。なお、この展覧会は東京で構成され、パリのオルセー美術館に巡回する。
10. 講演会等(会期中に3回開催予定, うち平成17年度は1回)	1回 参加人数83人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

スライドトーク等（会期中に5回開催予定，うち平成17年度は1回）

1回 参加人数43人（詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ）

イヤホンガイドの実施

利用者数2,545人（詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ）

11. 広報

共催者と連携し，新聞，雑誌，交通広告，インターネットホームページ，DM，チラシ等による幅広い情報の発信と，上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示，チラシの配布，インターネットホームページ（国立西洋美術館，毎日新聞社の各ホームページ）への割引引換券掲載を行うなどして，幅広い広報活動に努めており，現在も継続中である。

特記事項

「ロダンとカリエール」展開催記念講演会，「印象派から20世紀芸術へ オルセー美術館のコレクションからの展望」を開催（平成18年3月7日（火） 会場：日仏会館 講師：オルセー美術館長セルジュ・ルモンヌ氏）

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

誌名	掲載日	発行	備考
The Asahi Simbun	2005/1/1	朝日新聞社	28面
毎日新聞	2006/1/3	毎日新聞社	14面
毎日新聞	2006/1/7	毎日新聞社	1面
毎日新聞	2006/2/17	毎日新聞社	6面
毎日新聞	2006/2/17	毎日新聞社	22面 記念講演会の参加者募集
毎日新聞	2006/2/20	毎日新聞社	8面 展示作業開始
毎日新聞	2006/2/21	毎日新聞社	28面 日本経営クラブ講演と演奏会告知
毎日新聞(夕刊)北関東版	2006/2/20	毎日新聞社	8面 展示
毎日新聞(夕刊)	2006/2/28	毎日新聞社	8面
毎日新聞	2006/3/1	毎日新聞社	11面
毎日新聞	2006/3/7	毎日新聞社	30面 開会式
毎日新聞(夕刊)	2006/3/8	毎日新聞社	8面 開幕
毎日新聞(夕刊)	2006/3/8	毎日新聞社	16面
毎日新聞	2006/3/9	毎日新聞社	6面
しんぶん赤旗	2006/3/9		9面
毎日新聞	2006/3/11	毎日新聞社	1面 余録
日本経済新聞	2006/3/12	日本経済新聞社	27面 かたち百景
毎日新聞(夕刊)	2006/3/13	毎日新聞社	1面 創造する二つの魂 高階秀爾氏執
毎日新聞(夕刊)	2006/3/14	毎日新聞社	1面 創造する二つの魂 高階秀爾氏執
毎日新聞	2006/3/15	毎日新聞社	25面
毎日新聞(夕刊)	2006/3/16	毎日新聞社	1面 創造する二つの魂 高階秀爾氏執
毎日新聞(夕刊)	2006/3/17	毎日新聞社	1面 創造する二つの魂 高階秀爾氏執
毎日新聞(夕刊)	2006/3/18	毎日新聞社	1面 創造する二つの魂 高階秀爾氏執
毎日新聞	2006/3/18	毎日新聞社	14面
毎日新聞	2006/3/20	毎日新聞社	23面
毎日新聞	2006/3/22	毎日新聞社	28面 今週の1点

毎日新聞	2006/3/22	毎日新聞社	28面 今週の1点
毎日新聞(夕刊)	2006/3/23	毎日新聞社	7面
公明新聞	2006/3/28	公明新聞社	5面 美術ジャーナリスト藤田一人氏執筆
聖教新聞	2006/3/29	聖教新聞社	7面 村上光彦氏執筆

【雑誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
Musee'd Orsay	2005/6/1		
美術の窓	2006/2/20	生活の友社	
ギャラリー	2006/3/1	ギャラリーステーション	P25
美術の窓	2006/3/20	生活の友社	
美術の窓	2006/4/20	生活の友社	
Bon Vayage	2006/2/1	(株)アセット婦人画報社	P53
選択	2006/2/1	選択出版会社	
文芸広場	2005/2/1	第一法規株式会社	2月号
UOMO(ウオモ)	2006/3/1	SYUEISYA	3月号
文部科学時報	2006/3/10	株式会社ぎょうせい	主任研究官 大屋美那執筆

【広報誌等】

誌名	掲載日	発行	備考
NOMORI PRESS	2006/1/10	東京オペラの森	冬号 vol.3
TICHET CLASSIC	2006/1/15	株式会社クラシック・ジャパン	P109
遊歩道	2006/1/15	有限会社 二本松販売センター	vol.28
日刊協同組合通信	2006/1/19	株式会社協同組合通信社	P11
arch	2006/2/1	アート・コレクションハウス	全国主要美術館スケジュール 2.3月号
atre ueno SQUARE	2006/2/1	atre	vol.19
ウィクリーWEST	2006/2/13	株式会社クイント	INFORMATION
TICHET CLASSIC	2006/2/15	株式会社クラシック・ジャパン	P325
うえの	2006/3/1	上野のれん会	3月号 主任研究官 大屋美那執筆
上野の早春賦	2006/3/1	上野観光連盟	春のイベント情報
東京上野ロータリークラブ週報	2006/3/6	(株)マネージド・ケア・ジャパン	3月6日号
文教速報	2006/3/15	官庁通信社	好評開催記事
TICHET CLASSIC	2006/3/15	株式会社クラシック・ジャパン	P238

【ネット関連(web)】

掲載	掲載日	制作	備考
Musee'd Orsay	2005/8~		

毎日新聞社	2005/11 ~		
13. アンケート調査 来年度に実施			

自己点検評価

【良かった点, 特色ある取組み】

展覧会の自己点検評価については, 来年度に行う。

【見直し又は改善を要する点】

(2) 貸与・特別観覧の状況

中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

実績

1. 貸与・特別観覧の件数

貸与 4件 8点

特別観覧 63件 121点

(他に、松下電工汐留ミュージアム「文化遺産としてのモダニズム建築 DOCOMOMO100選展」へ、展覧会の資料として、国立西洋美術館基本設計図「文化センターの全体平面図」コピーの貸出を実施)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

昨年度より作品の貸与については館内でのプロセスを見直し、館の管理・事業運営の重要事項について審議する企画会議での議題として扱うこととして、幅広く迅速な対応が可能となるように貸与規則及び制度を変更した。これにより、平成17年度の貸与件数自体は4件8点に留まったが、来年度中に行なうことが既に決定している貸与件数は10件12作品に上り、着実に貸与件数の増加につなげている。

・平成17年度作品貸出先(海外1件、国内3件)

ロートレック美術館(フランス)、渋谷区立松涛美術館、ひろしま美術館、長崎県美術館

【見直し又は改善を要する点】

貸し出しの依頼を受けた展覧会へは、企画の内容、輸送・展示に伴う様々な条件、作品保存上の諸条件、さらには当館の展示プログラムなどとの整合性を検討した上で可能な限りの協力を行うこととしている。しかし、当館への貸出依頼の大部分は当館の常設展示の中核を成す優品に対してであるため、貸出によってその数点の作品を常設展示の流れの中から欠いてしまうということは来館者へ常設展示のテーマを分かりやすく伝え、魅力ある質の高い展示を公開していくという趣旨から考慮すると難しい面もある。また、依頼は同じ作品へ集中して受ける場合も多い。その場合はいずれか一方にしか貸与をすることができず、全ての依頼に応えることは出来ないため対応に苦慮しているところでもある。

このような理由から、急に作品貸与の点数を増やしていくことは困難な状況ではあるが、今後も貸与の推進方策や、貸与・特別観覧料金の適正な取り扱いなどの改善点について引き続き検討を行い、公開の必要性と保存の調和を図りながら積極的に取り組んでいく必要がある。

*添付資料

貸与件数等の推移(事業実績統計表 p.8)

特別観覧件数の推移(事業実績統計表 p.9)

3. 調査研究

中期計画

- (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示，教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ，国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ，次に掲げる調査研究を積極的に実施する。
- <1> 収蔵品に関する調査研究
 - <2> 美術作品に関する調査研究
 - <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
 - <4> 美術史，美術動向，作者に関する調査研究
 - <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等
- (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を，客員研究員等の制度を活用し招聘し，研究交流を積極的に推進する。
- (2) 調査研究の成果については，展覧会，美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに，研究紀要，学術雑誌，学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し，美術館に関連する研究の振興に供する。また，各種セミナー・シンポジウムを開催する。

実 績

1. 調査研究
- (1) 収蔵品，美術作品に関する調査研究
- 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
 - 中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
 - 美術館教育に関する調査研究
 - 美術館情報資料に関する調査研究
 - 15世紀から18世紀までのイタリア絵画及び素描の美術館的調査手法の実践（文部科学省在外研究員）
 - 16世紀パルマにおける芸術制作の政治的背景（国立西洋美術館在外研究員）
- (2) 保存・修理に関する調査研究
- 西洋美術作品の保存修復に関する調査研究
 - イタリア及びドイツにおける文化財保存環境整備と維持管理に関わる調査及び絵画の非破壊調査法に関する調査研究（昨年度より継続）（国立西洋美術館在外研究員）
- (3) 展覧会のための調査研究
- ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと17世紀フランス絵画に関する調査研究
 - ルネサンス・バロック期のドイツ美術の研究及び同時期のドイツにおける美術品収集史に関する調査研究
 - キアロスクーロ木版画に関する調査研究
 - ロダン・カリエールと19世紀フランス象徴主義に関する調査研究
 - マックス・クリンガー版画に関する調査研究
 - ピラネージ版画に関する調査研究
 - 新収蔵版画作品に関する調査研究
- (4) 科学研究費補助金による調査研究
- 16 - 17世紀西欧における版画出版と古代の受容
 - 火山噴火罹災地の文化・自然環境の復元の総括
 - 火山噴火罹災遺跡における生活・文化環境の復元研究
2. 客員研究員等の招聘実績 3人（年度計画記載人数：3人）
- 美術館教育に関する調査研究

美術館教育研究家 佐藤 厚子
展覧会に関する音楽プログラムの調査研究，企画等協力
東京芸術大学演奏芸術センター助手 瀧井 敬子
情報，広報事業等に関する英語表記の指導・助言
日本美術研究家 マーサ・マクリントク

3. 大学院との連携協力

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結
兼任教員：主任研究官 寺島 洋子，主任研究官 田中 正之

4. 調査研究費 予算額 47,295,000円 決算額 66,045,841円

自己点検評価

【良かった点，特色ある取組み】

平成17年度も，個々の展覧会に関連する調査研究と各人の専門分野において，充実した成果があった（展覧会カタログや研究紀要を参照）。

当館ではとりわけ展覧会を単なる一過性のイベントに終わらせないために，その企画から個々の作品の調査まで，常に貸手である欧米の研究者との共同作業であることを意識して準備をおこなっている。その成果は平成17年度の展覧会にも明瞭に反映しており，「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール」，「ドレスデン国立美術館展」，「キアロスクーロ」と，それぞれ展覧会の成立の経緯は全く異なるものの，欧米の一線の研究者の協力を得ておこなわれたものであり，当館の国際的な水準が前提となっはじめて実現されたものであった。

また，科学研究費補助金による調査研究3件，文部科学省在外研究員制度による在外研究1件，国立西洋美術館在外研究員制度による在外研究2件の実施，客員研究員の招聘，外国人研究員の招聘，大学等における非常勤講師，他機関の研究発表・運営委員会・作品購入委員会に参加するなどして，国内外の施設機関及び外部研究者と交流・意見交換を行い，積極的な研究成果の発表に努めた。

その他の取組みとして，平成17年度は新たに版画素描閲覧室を開室し，外部の研究者・専門家へ，常時展示をしていない版画・素描作品の公開を始めたほか，全国美術館会議教育普及ワーキンググループ並びに東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力による，総会・研究発表大会を国立西洋美術館講堂において開催し，積極的な研究交流を推進した。また，調査・研究体制の整備にも取り組んでおり，外部資金獲得の一環として科学研究費補助金の申請率・採択率の向上を図るため，科学研究費補助金について説明会及び模擬申請を実施した。

【見直し又は改善を要する点】

所蔵品の研究については中長期的な展望に立った計画の立案と，それに沿った実施が必要である。引き続き，調査・研究体制の整備を図りたい。また，その研究成果の公開，学会等への積極的な発表を今後の課題としたい。

* 調査研究一覧（事業実績統計表 p.74）

4 . 教育普及

中期計画

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

方 針

美術館と美術作品への関心と興味を引き起こし、美術館の利用を促進する。そして、美術作品を通して、様々なものの見方や考え方を提供し、人生を豊かに生きるための感性と考える力を養うことを支援する。さらに、幅広い年齢層、多様な知識、経験、関心をもつ多様な人々の自発的な学習を支援する。そのために、それぞれの対象や目的に合わせ、適切な手段・方法によって美術館や美術と接する機会を提供するよう務める。

実 績(総括表)

- (1) - 1 資料の収集及び公開
収集件数 3,730件(入力済データ件数)
公開場所
・企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター

(西洋美術史などの研究者を対象とした資料センターとして、西洋美術史研究図書、雑誌、マイクロフィッシュ等の資料約154,810点を所蔵し公開している。)

利用者数 305人

貸出件数 531件 1,806点

・本館1階 資料コーナー

(一般の利用者向けに本館1階のフリーゾーンに設置し、展覧会カタログ、年報、要覧など、過去およそ10年分の当館の出版物と、全国美術館案内や美術事典などを公開している。)

本館1階資料コーナーはフリーゾーンとしているため多数の利用者があるが利用者数の集計はしていない

(1) - 2 広報活動の状況

刊行物による広報活動 8種 16冊

『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』(年4回発行(春、夏、秋、冬))等の刊行物を発行し、美術館の理解と利用の促進に向けて広報活動を行い、積極的に情報の発信に努めている。

ホームページによる広報活動

ホームページでは、コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内、オンライン蔵書目録(OPAC)、携帯電話用(iモード等)コンテンツなどを常時掲載し、適時更新を行い、海外からのアクセス向けに英語版のホームページを整備している。また、ボランティア募集等の事業案内広報を掲載しているほか、教育プログラム等の参加申し込みについて、インターネットを利用してホームページ上で申し込みができるようにするなど、ホームページを利用した情報発信とインターネットを活用した利便性の向上を図り、来館者のニーズに対し、美術館の側から積極的に配信を行っていくよう努めている。

マスメディア等による広報活動

国立西洋美術館ニュース(年4回発行)、プレスリリース(展覧会ごとに、内容を紹介する資料(A4判、フルカラー3~8ページ)と記者内覧会(原則として展覧会開催日の前日に開催)の案内を作成。新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト関連・ライター等マスメディア関係に配布。展覧会紹介、美術館紹介に関する取材、撮影、資料提供に随時対応し、美術館事業の普及広報に努めている。

(1) - 3 デジタル化の状況

平成17年度にデジタル化を行った件数 3,927件(文字データ3,594件、画像データ333件)

(2) - 1 児童生徒・教員を対象とした事業

Fun with Collection 2005

「いろいろメガネ Part1 あなたの見かた教えてください」 1回

Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。

ワークショップ(創作・体験プログラム等)	14回	1,293人
先生(小・中・高等学校教員)のための鑑賞プログラム	3回	302人
ファミリー・プログラム「びじゅつーる」	12回	755人
ファミリー・プログラム「どうようびじゅつ」	12回	204人
スクール・ギャラリートーク	37回	1,221人
教員研修会	2回	30人
東京都立飛鳥高等学校課外授業へ協力	1回	7人
団体訪問者(学校・団体)への解説	46回	908人

(2) - 2 講演会等の事業

講演会 14回 1,323人

スライドトーク等	17回	1,324人
展覧会に関連する音楽プログラム	1回	100人
「ジヨルジュ・ド・ラ・トゥール」に関する音楽会	3回	300人
イヤホンガイド	3回	72,089件
(3) - 1 研修の取組		
他の機関が実施する研修等事業への協力を実施	236人	
(3) - 2 大学等との連携		
東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力		
国立西洋美術館インターンシップ	5名(西洋美術史2名,教育普及2名,情報資料1名)	
(3) - 3 ボランティアの活用状況		
ファミリー・プログラム「びじゅつーる」貸出担当		
ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」の実施		
スクール・ギャラリートーク		
教育普及プログラムの補助担当		
ボランティア研修を実施		
(4) 渉外活動		
新聞社, 団体・企業等との連携により, 企画・運営・広報・輸送等の幅広い協力並びに相互の支援関係が得られた。		
(5) 教育普及経費	予算額 129,918,000円	決算額 117,373,313円

自己点検評価

【良かった点, 特色ある取組み】

平成13年度から始まった, 最初の中期計画最後の年となる平成17年度は, 当中期目標に沿って計画した活動のほぼすべてが実現し, 既存のプログラムとともに安定した活動が行われた。2年目となるボランティアも充実したプログラムを展開するだけでなく, 更なる意欲を発揮して当館の教育普及プログラム全体の活力となった。

また, Fun with Collection は, 作品の見かた, 楽しみかたをテーマとして来館者が主役となるこれまでにない企画が実施されたものであった。

【見直し又は改善を要する点】

今回の中期計画中に新たに企画・開始した教育普及事業を安定して実施するためには, 既存の活動も含めて総合的な見直し整理を行い, 人員に見合う仕事量となるようバランスを取る必要があると考える。

また, 教育普及プログラムは館外各所でのポスター掲示等を行わないため, 展覧会に比べ周知がされにくいという傾向がある。これを改善するために広報の方法を検討していく必要がある。

*添付資料

教育普及件数の推移(事業実績統計表 p.14)

(1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況

中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

実績

1. 収集

件数 3,730件(入力済データ件数)

2. 公開

(1) 企画展示館事務棟地下1階

公開場所 研究資料センター

公開日数 96日

公開件数

・公開資料数 37,387件

公開資料数内訳：図書35,793冊

雑誌49,464冊(タイトル数は延べ1,562タイトル)

マイクロ資料32タイトル(マイクロフィッシュ69,290枚,マイクロフィルム263本)

・公開請求件数 531件 1,806点(請求による出納件数のみ,開架書架の利用件数は含まない)

(2) 本館1階

公開場所 資料コーナー(フリーゾーン)

公開日数 294日間

公開件数

・公開資料数 278件(96タイトル139件×2セット)

自己点検評価

【良かった点,特色ある取組み】

平成17年度も,購入による資料収集と共に,国内外美術館等との資料交換により図書の積極的収集に努めた(交換件数国内224件,海外234件)。

図書情報については,OCLC(米国のライブラリーサービス機関)への登録の継続及びこれまで十分に実施できていなかったNACSIS(国立情報学研究所)への所蔵登録を新たに開始したほか,昨年度,試験的に参加開始したALC(美術図書館横断検索)への本格的参加を実現した。図書整理業務では,整理業務の一部外部委託も継続し,公開冊数の増加に努め,これに応じて図書収容量を増やすため閲覧室の書架の増設及び図書以外の資料に関して,美術館の記録資料,作品関連資料,写真資料,展覧会記録等の一元管理体制の実現に向けて,書庫の大幅なレイアウト変更を行った。

また,平成17年度はインターンの受入も行っており,研究資料センター業務,図書・資料整理業務などの指導・研修を行った。

【見直し又は改善を要する点】

研究資料センターの現行の週2日開室体制では,利用者のさまざまな要望(他の曜日に利用したい,連日通って集中的に調査したいなど)に応じることができない。今後は,研究資料センターの開室日数の拡大等も検討し,利用者のニーズに応えていく必要があると考える。

(1) - 2 広報活動の状況

中期計画

(5)-1 収集, 保管, 修理, 展示, 教育普及, 調査研究その他の事業について, 要覧, 年報, 展覧会図録, 研究論文, 調査報告書等の刊行物, ホームページ, またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに, 国立美術館への理解の促進を図る。
また, その内容について充実を図るよう努力するとともに, 4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

実績

1. 刊行物による広報

(1) 『国立西洋美術館年報 No. 39 (April 2004 - March 2005)』

発行年月日 平成18年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 国内外の博物館等施設, 国立国会図書館, 大学図書館, 研究所等

(2) 『国立西洋美術館研究紀要 No. 10』

発行年月日 平成18年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 国内外の博物館等施設, 国立国会図書館, 大学図書館, 研究所等

(3) 『平成17年国立西洋美術館要覧』

発行年月日 平成17年5月1日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 博物館等施設, 国立国会図書館, 大学図書館, 研究所等

(4) 展覧会に伴う図録

ア. 『ドレスデン国立美術館展 世界の鏡』(図版編)

イ. 『ドレスデン国立美術館展 世界の鏡』(エッセイ編)

ウ. 『キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画』

エ. 『ロダンとカリエール』

発行年月日 3回発行(発行回数3回)(年度計画発行回数の記載は無し)

料金 ア. 2,500円, イ. 1,000円, ウ. 2,800円, エ. 2,800円

配布先 会場内販売, 国内外の博物館等施設, 国立国会図書館, 大学図書館, 研究所等

(5) 『ジュニアパスポート』

ア. 『ドレスデン国立美術館展 世界の鏡』

イ. 『キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画』

ウ. 『ロダンとカリエール』

発行年月日 3回発行(発行回数3回)(年度計画発行回数の記載は無し)

料金 無償

配布先 小中学生入館者, 学校等教育機関

(6) 『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』No. 23~No. 26

発行年月日 平成17年5月20日, 8月20日, 11月20日, 平成18年2月20日 4回発行(発行回数4回)(年度計画記載発行回数4回)

料金 無償

配布先 会場内配布, 修学旅行計画のための学校等

(7) 『独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館リーフレット』

発行年月日 平成18年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 博物館等施設, 国立国会図書館, 大学図書館, 研究所等

(8) 『国立西洋美術館展覧会レポート1985-2005』

発行年月日 平成18年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画発行回数の記載は無し)

料金 無償

配布先 国内外の博物館等施設, 国立国会図書館, 大学図書館, 研究所等

2. インターネットを用いた広報

(1) ホームページによる広報

常設展・企画展の展示解説及び作品図版の掲載, 適時更新を実施している。

オンライン蔵書目録(OPAC)をホームページで公開し, インターネット上で所蔵図書データの検索を可能としている。

教育プログラム等の参加申し込みについては, インターネットを利用してホームページ上からも申し込みが可能となる機能を備え, 利用者の利便性の向上を図っている。

3. その他の広報

(1) マスメディア等の利用による広報

国立西洋美術館ニュース, 展覧会情報を新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト関連・ライター等マスメディア関係に配信

展覧会紹介, 美術館紹介に関する取材, 撮影, 資料提供には随時対応

(2) 近隣の地域, 企業, 教育関係機関との連携による広報

広報誌「うえの」(発行: 上野のれん会), 「Weekly Matsuzakaya」(発行: 上野松坂屋), 「Weeklyぴあ」(発行: ぴあ(株))等に美術館情報を掲載

台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」, 「art-Link上野-谷中2005」等に参加し広報活動を実施

各地の地方公共団体の教育委員会に対し 美術館の利用を促進し修学旅行を誘致するためのPR活動及び今後のPR事業を円滑に進めるため, 修学旅行のシステムや意見等の聞き取り調査を実施した。

自己点検評価

【良かった点, 特色ある取組み】

平成17年度も, 各種刊行物及びホームページを利用した広報活動に取り組み, 小・中学生向けの展示解説パンフレット『ジュニアパスポート』の無料配布を行うなど, 美術館と美術作品への関心と興味を引き起こし美術館の利用を促進することに有効であった。なお, 『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』の発行にあたり(財)西洋美術振興財団より助成を得ることができた。

【見直し又は改善を要する点】

インターネットを活用した広報については, 作品や美術館情報の有効な発信手段として認識し, 毎年拡充を図っているが, 規模が大きくなるほど, 校正等の情報精度の保持に関わる作業も増えていくため, その維持のために要する作業量が課題となっている。

今後は, ホームページの広報活動の目的を考慮しつつ, 利用者にとってより魅力に富んだ使用しやすいものへと改善ができるよう, 機能やコンテンツの充実について検討していく必要がある。

(1) - 3 デジタル化の状況

中期計画

- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

実績

1. 所蔵作品のデジタル化

平成17年度にデジタル化した美術作品の件数 3,927件(文字データ3,594,画像データ333)

平成17年度未収蔵作品数 4,445件

平成17年度未データベース化,デジタル化作品数 4,445件

今後のデジタル化の対応 新規に取得した作品についてデジタル化,収蔵作品管理システムの充実を予定

2. ホームページのアクセス件数 1,005,566件(平成12年度アクセス件数275,000件) (日本語トップページ 981,392件,英語トップページ 24,174件)

3. デジタル化した情報の公開

国立西洋美術館HP等による公開件数 231件(デジタルギャラリー204件,HP27件)

文化庁文化遺産オンライン公開件数 27件

独立行政法人国立美術館総合目録公開件数 4,058件

自己点検評価

【良かった点,特色ある取組み】

昨年度に引き続き収蔵作品基本データの再整備を行い,平成17年度は版画のデータについて実施した。版画データについてはインターネット上の所蔵作品総合目録検索システムへの追加を行い,公開点数の増加につとめた(文字データ 約4,000件,画像データ約60件)。この他,新たに画像のデジタル化も行った(カラー,モノクロ含めて計約270点)。これらのデータ整備と平行し,業務基盤としての収蔵作品管理システムの再構築を行い,館内で作品情報を共有する環境を新たに整備した。

また,館内フリーゾーンのデジタルギャラリーは,昨年度同様のプログラムを継続して利用者に提供し,好評を得ている。

【見直し又は改善を要する点】

収蔵作品管理システムの構築により,ハード面についての環境は整いつつあるが,ソフト面については,これまで同様,計画的にデータ整備作業を進めていく必要がある。まず,これまで整備してきたデータをこれに搭載し,次に,依然として複数の旧システムにある来歴・展覧会歴・文献歴等の学術的データを再整備していかなければならない。また,画像についてもデジタル化を継続して実施し,公開点数を増やしていく必要があり,これらへの対応が課題である。

(2) - 1 児童生徒を対象とした事業

中期計画

(2) 新学習指導要領，完全学校週5日制の実施等を踏まえ，学校，社会教育関係団体と連携協力しながら，児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成，講座，ワークショップ等を実施することにより，美術作品等への理解の促進，学習意欲の向上等を促し，心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。

また，児童生徒を対象とした事業について，中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

実績

1. Fun with Collection 2005「いろいろメガネ Part1 あなたの見たか教えてください」及び，本企画に関連する教育普及プログラム 15回

ア. 「いろいろメガネ Part1 あなたの見たか教えてください」

(協力：西洋美術振興財団)

開催期間

平成17年7月1日(金)～12月27日(日)(155日間)(開催場所：本館，新館)

参加者数

Fun with Collectionは，当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり，特別に展覧会という形式をとらず，常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため，参加者数という計上は行っていない。

担当した研究員数 4人

事業内容

十人十色と言うように，美術館で作品を見て感じる事，思うことは一人一人が違う。今回の Fun with Collection は，人それぞれの作品の見たかや楽しみかた(「メガネ」)がテーマである。国立西洋美術館の常設展に来館される皆さんを主役として，それぞれの「メガネ」について考えたり，お互いに「メガネ」を交換したり，自分とは違う作品の見たか，感じかたを体験してみる。(詳細は「公衆への観覧」展覧会の状況欄へ)

イ. 「あなたがつづるこの1点」

開催期間

平成17年7月1日(火)～平成17年10月31日(月)

審査員：内館牧子(脚本家)，みうらじゅん(イラストレーターなど)，国立西洋美術館長

参加者数 433名

担当した研究員数 7人

事業内容

一般(子供から大人まで)対象

常設展示の中から気になる1点を選び，その作品を前にして感じる事，作品にまつわる思い出，自分なりの解釈など，自分の見たかですつづった言葉を募集する。(応募方法：館内の応募箱に直接投函，郵送，FAX，ホームページ)

ウ. 「あなたがつづるこの1点」関連プログラム みうらじゅんの大講評会

開催期間

平成17年12月3日(土)14:00～15:30

講師：みうらじゅん(イラストレーターなど)

参加者数 145名(定員145名)

担当した研究員数 4人

事業内容

一般（子供から大人まで）対象

審査員，みうらじゅん氏のトークによる，上記プログラムで集められたエッセイの講評会

エ．「君の名は？ - あなたも作品の名づけ親」

開催期間

平成17年7月1日（金）～平成18年5月28日（日）

参加者数 本プログラムは自由参加のため，集計は無し

担当した研究員数 4人

事業内容

一般（子供から大人まで）対象

常設展の作品（毎月選ばれた3点）に，自由に題名をつける。

オ．「感じたままに詠んでみよう！ - セイビ de ハ・イ・ク（俳句）」

開催期間

平成17年7月24日（日） 午前の部10：30～12：30 参加者数12名

午後の部13：30～15：30 参加者数 8名

進行：ゴウヤスノリ（ワークショップ・プランナー）

参加者数 20名（定員 各20名）

担当した研究員数 4人

事業内容

中学生以上対象

グループで常設展示室を見て回り，作品の印象を五・七・五の言葉で表す。

カ．「国立西洋美術館（セイビ）いいところ撮り - 子ども撮影隊が行く！」

開催期間

平成17年7月30日（土），31日（日），8月1日（月），8月7日（日）

10：00～17：00（8月7日は13：30～15：30）

進行：山本良子（映像制作）

参加者数 3名（定員20名）

担当した研究員数 7人

事業内容

小学校4年生から中学生対象

おすすめスポットや，お気に入り作品を撮影し，国立西洋美術館紹介ビデオを作成してみる。

キ．「集まれ！こども審査員 - お気に入りの賞をつけよう！」

開催期間

平成17年8月9日（火）13：30～16：30

進行：ゴウヤスノリ（ワークショップ・プランナー）

参加者数 8名（定員20名）

担当した研究員数 4人

事業内容

小学校4年から6年対象

美術館の絵や彫刻を見て、好きな作品や気になる作品に賞を付ける。

ク. 「ファインダー越しの美術館 - 自分だけの写真集を作ろう」

開催期間

平成17年8月20日(土), 21日(日) 10:00~17:00

講師: 中島古英(フォトグラファー)

参加者数 10名(定員10名)

担当した研究員数 4人

事業内容

高校生以上対象

美術館や作品をそれぞれの視点で写真に撮って写真集を作り、お互いの視点の違いを見つめてみる。

ケ. 「日曜日の美術館 - 私のメガネで見えます?」

開催期間

平成17年 9月18日(日) 14:00~15:30

講師: 高畑 勲(アニメーション映画監督) 参加者数 54名

平成17年10月 2日(日) 14:00~15:30

講師: 林 英哲(太鼓奏者) 参加者数 133名

平成17年10月16日(日) 14:00~15:30

講師: 舟田詠子(東海大学非常勤講師) 参加者数 56名

平成17年11月 6日(日) 14:00~15:30

講師: 森 英恵(デザイナー) 参加者数 129名

参加者数 372名(定員 各145名)

担当した研究員数 7人

事業内容

一般(子供から大人まで)対象

各界の様々な講師による、美術作品の見方、楽しみ方についての講演

コ. 「美術館のクリスマス」

開催期間

平成17年12月17日(土) 午前の部 10:00~12:30 参加者数 15名

午後の部 14:00~16:30 参加者数 16名

平成17年12月18日(日) 午前の部 10:00~12:30 参加者数 15名

午後の部 14:00~16:30 参加者数 22名

参加者数 68名

担当した研究員数 3人

事業内容

6才から9才の子供と同伴の大人対象

展示室で《キリスト降誕》の絵を見た後に、その絵について感じたことを書いたクリスマス・ツリーの飾りを作成

サ. 「クリスマス・キャロル」

開催期間

平成17年12月17日(土) 13:00~13:40 参加者数50名

16:00~16:40 参加者数50名

平成17年12月18日(日) 13:00~13:40 参加者数50名

16:00~16:40 参加者数50名

企画・進行: 岡伊陽子, 小島里枝子, 二宮由紀(東京藝術大学大学院)

合唱: 東京藝術大学声楽科有志

参加者数 200名

担当した研究員数 6人

事業内容

一般(子供から大人まで)対象

クリスマスの歌を特集した, アカペラコンサート

シ. 「サンタクロース物語」

開催期間

平成17年12月23日(祝・金) 14:00~15:30

講師: 葛野浩昭(聖心女子大学助教授)

参加者数 34名(定員145名)

担当した研究員数 3人

事業内容

中学生以上対象

聖ニコラウスから現代のサンタクロースになるまでの変遷について講演。クリスマスという「メガネ」で美術館を楽しんでみる。

2. 先生(小・中・高等学校教員)のための観賞プログラム 3回

ア. 「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」観賞プログラム

開催期間

平成17年7月1日(金) 18:00~

参加者数 102名(定員145名)

担当した研究員数 4人

事業内容

「教員を対象とした活動」として, 企画展開催時に教員を対象とする観賞プログラムを行っている。日頃, 多忙な教員に, 展覧会を楽しんでもらうことが目的であり, 展覧会の趣旨や作品について説明した後, 自由に展覧会を観賞していただいた。

イ. 「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画」観賞プログラム

開催期間

平成17年10月21日(金) 18:00~

参加者数 104名(定員145名)

担当した研究員数 4人

事業内容 同上

ウ. 「ロダンとカリエール」観賞プログラム

開催期間

平成18年3月17日(金) 18:00~

参加者数 96名(定員145名)

担当した研究員数 4人

事業内容 同上

3. ファミリー・プログラム「びじゅつーる」 12回

開催期間

平成17年4月9日(土), 4月23日(土), 5月14日(土) 5月28日(土), 9月10日(土),
9月24日(土), 10月8日(土) 10月22日(土), 11月12日(土), 11月26日(土),
平成18年3月11日(土), 3月25日(土) 10:00~17:00(随時)

参加者数 755名

担当した研究員数 3人

事業内容

6~10歳の子どもと同伴の大人を対象

常設展の作品鑑賞を助けるツール(道具)を貸し出す。そのツールを利用して,作品のことを何も知らなくとも,大人も子どもも一緒に展示を楽しむことができるプログラム

(「びじゅつーる」=常設展にある絵や彫刻を,いろいろな方法で楽しむために作られた鑑賞用教材。 ロダン・ツール 彫刻の動きに注目。人形にポーズをつけて彫刻をつくってみる。 モネ・ツール 描き方や材料に注目。カンヴァスや筆にさわったり,カードと絵を組み合わせるゲームをしたりする。 ドニ・ツール 色づかいや描き方に注目。カラフルな玉を画面において,点描のように絵をつくったりする。)

4. ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」(ボランティアスタッフによる) 12回

ア. 「暑中お見舞い申し上げます」

開催期間

平成17年7月 9日(土) 10:30~12:30(1回目) 15名

14:00~16:00(2回目) 15名

平成17年7月23日(土) 10:30~12:30(3回目) 19名

14:00~16:00(4回目) 16名

平成17年8月13日(土) 10:30~12:30(5回目) 13名

14:00~16:00(6回目) 14名

平成17年8月27日(土) 10:30~12:30(7回目) 21名

14:00~16:00(8回目) 18名

参加者数 131名(定員各回15名)

担当した研究員数 4人

事業内容

6~10歳の子どもと同伴の大人を対象

美術館の作品をデジタルカメラで撮影し,手紙にして送ってみる。

イ. 「キラキラ色のヒミツ」

開催期間

平成18年2月11日(土) 10:30~12:30(1回目) 16名

14:00~16:00(2回目) 17名

平成18年2月25日(土) 10:30~12:30(3回目) 21名

14:00~16:00(4回目) 19名

参加者数 73名(定員各回15名)

担当した研究員数 3人

事業内容

6~10歳の子どもと同伴の大人を対象

絵の中でキラキラ光る色について、何を使用しているのか、どういう手法で描かれたのかを考えてみる。

5. スクール・ギャラリートーク 37回

開催期間 5月~8月, 11月~2月の火・水・金曜日 9:30~

参加者数 1,221名

担当した研究員数 2人

事業内容

小・中・高等学校の団体を対象

平成17年度より新たに、常設展示でのスクール・ギャラリートークを開始した。子どもたちの思考を刺激し、観察力を育て、自ら考えて言葉を紡ぐことを促す、対話式のトークプログラムである。子どもたち一人一人の思いや考えを大切にするために、少人数のグループに分かれて自由に対話する。各グループをリードする美術館のエducatorとボランティアスタッフは、子どもたちの自主性を尊重し、“作品をじっくり観る”手助けを行う。

6. 教員研修会 2回

ア. 夏期教員研修

開催期間

平成17年7月25日(月) 10:00~16:00

参加者数 14名

担当した研究員数 2人

事業内容

学校の教員対象

武蔵野市市立小中学校教育研究会図工・美術部会との連携により、学校で美術館を利用する際に知っておくと便利なこと、また当館の設立経緯、コレクション、建物など、広範にわたる美術館紹介を主とする研修を行った。

イ. 東京都図画工作研究会 / 東京国立近代美術館 / 国立西洋美術館合同教員研修会

開催期間

平成17年8月29日(月) 9:45~17:00

参加者数 16名

担当した研究員数 5人

事業内容

学校の教員対象

東京都図画工作研究会，国立西洋美術館，東京国立近代美術館との3組織合同の研修企画である。今回は鑑賞の基礎に立ち返り「見る」ことをテーマに研修を行った。

7. 東京都立飛鳥高等学校課外授業へ協力

研修期間 平成17年5月20日(金)，28日(土)，6月18日(土)，24日(金)，7月1日(金)

開催場所 国立西洋美術館

参加者数 7名

担当した研究員数 3人

事業内容

東京都立飛鳥高等学校の学外での教育施設における学修の単位認定を伴う課外授業に対し，国立西洋美術館，東京国立近代美術館，東京国立博物館の3館が協力して講座等を実施した。当館は，全30時間のうち10時間を担当し，7名の参加者に対し当館のコレクションを使って絵画，彫刻，建築についての授業を行った。

8. 団体訪問者(学校・団体)への解説 46回

実施期間 随時

実施場所 講堂，常設展示室，その他

利用者数 46校 908人

担当した研究員数 3人

事業内容

要請のあった教育関係団体，あるいはグループに個別に対応し，コレクション，美術館や学芸員の仕事などの解説を行った。

自己点検評価

【良かった点，特色ある取組み】

児童生徒・教員を対象とした活動は，下記の項目を実施した。

1) スクール・ギャラリートークと美術館訪問への対応

2) 学校の教員を対象とする観賞プログラムおよび研修

3) 特別展ごとのジュニアパスポート

4) ファミリー・プログラム

5) Fun with Collection(所蔵作品を中心としたプログラム)

6) 東京都立飛鳥高校課外授業への協力

7) 上野の山ミュージアム・クラブへの協力

1) 長年の懸案であった常設展を使った通年のスクール・ギャラリートークを，平成17年度から開始した。例年同様，夏期に集中する学校の利用に加え，それ以外の時期にも対応できるようになったことで，以前より多くの学校団体を受け入れることができた。また，利用期間が拡大したことで年間に複数回利用する学校も出てくるなどの効果もあった。

2) 企画展ごとの「先生のための観賞プログラム」は，継続して実施をしてきたことによってプログラムが周知され，確実にその利用者が増加してきている。また，夏期には，東京都図画工作研究会(以下「都図研」)と武蔵野市市立小中学校教育研究会図工・美術部会のそれぞれと教員研修を行った。都図研との研修は，平成17年度から東京国立近代美術館(以下「東近美」)も加わり3組織合同の企画となり，今回は鑑賞の基礎に立ち返り「見る」ことをテーマに当館で1日の研修を行った。

3) 「ドレスデン展」「キアロスクーロ展」「ロダンとカリエール展」の3展覧会のジュニアパスポートを制作した。

平成17年度は、前期インターンシップ・プログラムの課題として、ジュニアパスポートの改善調査を実施した。その結果、「キアロスクーロ展」以降はこれまでの問題点を改善してより効果のあるジュニアパスポートを提供することができた。

4)常設展示室で使用する作品観賞用教材「びじゅつーる」(5種類)の貸出と、作品観賞と創作をセットにした「どようびじゅつ」が交互に実施された。「どようびじゅつ」は、夏期に「暑中お見舞い申し上げます」、冬期に「キラキラ色のひみつ」が実施され、毎回定員を上回る応募があり、リピーターも多く大変好評であった。

5)Fun with Collectionは「いろいろメガネPart 1 - あなたの見かた教えてください」と題して、美術作品の見かた、楽しみ方をテーマに数々のプログラムを実施した。全ての人を対象に行ったエッセイ募集には、スクール・ギャラリートークに参加した小学生からの応募が多数あった。また、本プログラムに関連して夏期と冬期に複数のワークショップを実施した。

6)近年、学外の教育施設における学修を推進する動きがあり、都立飛鳥高校より当館を含む3館(東京国立近代美術館、東京国立博物館)に、依頼があり試験的に課外授業を実施した。当館は、全30時間のうち10時間を担当し、7名の参加者に対し当館のコレクションを使って絵画、彫刻、建築についての授業を行った。

7)昨年度より始まった、国立科学博物館主催の「上野の山ミュージアム・クラブ」(中学生対象)に平成17年度も協力した。昨年度は、Fun with Collectionの既存プログラムに数名の参加者を受け入れるという限定した協力であったが、平成17年度は油彩の絵の具に関するワークショップを独立して企画し23名の参加者を受け入れた。

【見直し又は改善を要する点】

ギャラリートークを複数回利用する学校に対し、より効果的なトークを提供するためには、トークの内容にヴァリエーションを持たせること、また利用者の希望を満たすよう学校とより緊密な連携を取る必要が出てきていると考える。また、学校の教員を対象とする、都図研、東近美、当館の合同研修は、試行から今後は鑑賞教育の研究プログラムに位置づけ、美術館と学校の双方にとって意義のある研究的要素をより重視する方向で内容の見直しを検討したい。

(2) - 2 講演会等の事業

中期計画

(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。

それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

実績

1. 企画展における講演会 14回(年度計画記載回数: 12回)

参加者総数 1,323名(平成12年度実績 770名)

ア. 「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール」 5回

(本展の講演会は、この他に昨年度にも2回実施している)

開催期間 5日間

平成17年4月2日(土) 14:00~15:30 参加者数150名

「アトリビュートから読み解く、ラ・トゥール作《聖トマス》」

講師: 木村三郎(日本大学教授)

平成17年4月23日(土) 14:00~15:30 参加者数140名

「私とラ・トゥール『夜の画家』研究ノート」

講師: 田中英道(東北大学教授)

平成17年4月30日(土) 14:00~15:30 参加者数140名

「ラ・トゥールとロレーヌ公国の美術」

講師: 大野芳材(青山学院女子短期大学教授)

平成17年5月7日(土) 14:00~15:30 参加者数111名

「見えないものを描く - 17世紀フランス思想とジョルジュ・ド・ラ・トゥールの作品世界」

講師: 塩川徹也(東京大学教授)

平成17年5月21日(土) 14:00~15:30 参加者数155名

「ラ・トゥールの光と闇 - ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展解題」

講師: 高橋明也(国立西洋美術館主任研究官)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 696名

担当した研究員数 9人

事業内容

企画展覧会の展示作品を中心に、その展覧会を理解する上で欠かすことのできない、重要な歴史・文化・知識についての講演会を開催した。

アンケート結果(回答数88件)

- ・大変わかりやすかった 25.0%(22件) ・わかりやすかった 50.0%(44件) ・まあまあだった 16.0%(14件)
- ・ややわかりにくかった 4.5%(4件) ・わかりにくかった 0%(0件) ・無回答 4.5%(4件)

イ. 「ドレスデン国立美術館展 世界の鏡」 4回

開催期間 4日間

平成17年7月3日(日) 14:00~15:30 参加者数 63名

「ピルニッツ城保管の日本製輸出漆器」

講師：加藤寛（東京国立文化財研究所 修復技術部長）

平成17年7月24日（日）14：00～15：30 参加者数 124名

「ヨーロッパにとってのトルコ - 歴史的文脈から - 」

講師：新井政美（東京外国語大学 教授）

平成17年8月14日（日）14：00～15：30 参加者数 75名

「ヨーロッパ近世科学機器と日本・中国への伝播」

講師：中村士（国立天文台 助教授）

平成17年9月11日（日）14：00～15：30 参加者数 120名

「ドレスデン - 世界の鏡：展覧会のコンセプト」

講師：佐藤直樹（国立西洋美術館主任研究官）

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 382名

担当した研究員数 7人

事業内容 同上

アンケート結果（回答数73件）

- ・大変わかりやすかった 42.5%（31件）
- ・わかりやすかった 43.8%（32件）
- ・まあまあだった 11.0%（8件）
- ・ややわかりにくかった 0%（0件）
- ・わかりにくかった 0%（0件）
- ・無回答 2.7%（2件）

ウ. 「キアロスケーロ -ルネサンスとバロックの多色木版画」 4回

開催期間 4日間

平成17年10月15日（土）14：00～15：30 参加者数 30名

「ドイツのキアロスケーロ木版画」

講師：保井亜弓（金沢美術工芸大学助教授）

平成17年10月29日（土）14：00～15：30 参加者数 33名

「オランダのキアロスケーロ木版画 - ホルツィウスを中心に」

講師：幸福輝（国立西洋美術館学芸課長）

平成17年11月12日（土）14：00～15：30 参加者数 65名

「キアロスケーロ木版画の技法を推理する」

講師：柄澤齊（版画家）

平成17年11月26日（土）14：00～15：30 参加者数 34名

「イタリアのキアロスケーロ木版画」

講師：渡辺晋輔（国立西洋美術館研究員）

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 162人

担当した研究員数 7人

事業内容 同上

アンケート結果（回答数24件）

- ・大変わかりやすかった 29.2%（7件）
- ・わかりやすかった 54.2%（13件）
- ・まあまあだった 16.6%（4件）
- ・ややわかりにくかった 0%（0件）
- ・わかりにくかった 0%（0件）
- ・無回答 0%（0件）

エ. 「ロダンとカリエール」 1回

(本展の講演会は、この他に来年度にも2回実施予定である。)

開催期間 1日間

平成17年3月7日(火)13:00~15:30

「ロダンと『偉大なる芸術家のアトリエ』」

講師：アントワネット・ル・ノルマン・ロマン(パリ,ロダン美術館主任学芸員)

「19世紀フランスにおけるロダンとカリエール」

講師：エマニュエル・エラン(パリ,オルセー美術館学芸員)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 83名

担当した研究員数 6人

事業内容 同上

2.スライドトーク等 17回(年度計画記載回数:14回)

参加者総数 1,324名(平成12年度実績700名)

ア.「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール -光と闇の世界」スライドトーク 5回

開催期間 平成16年4月1日(金)(79名),4月15日(金)(86名),4月29日(金)(81名),
5月13日(金)(154名),5月20日(金)(132名) (5日間)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 532名

担当した研究員数 4人

事業内容 展覧会の見どころや主な作品について 夜間開館を行っている金曜日に講堂でスライドトークを行った。

アンケート結果(回答数84件)

・大変わかりやすかった 21.4%(18件)・わかりやすかった 45.2%(38件)・まあまあだった 25.0%(21件)
・ややわかりにくかった 2.4%(2件)・わかりにくかった 0%(0件)・無回答 6.0%(5件)

イ.「ドレスデン国立美術館展 世界の鏡」スライドトーク 6回

開催期間 平成17年7月8日(金)(71名),7月22日(金)(94名),8月5日(金)(168名),
8月19日(金)(56名),9月2日(金)(85名),9月16日(金)(155名)
(6日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 629名

担当した研究員数 4人

事業内容 同上

アンケート結果(回答数39件)

・大変わかりやすかった 28.2%(11件)・わかりやすかった 46.2%(18件)・まあまあだった 23.1%(9件)
・ややわかりにくかった 0%(0件)・わかりにくかった 2.5%(1件)・無回答 0%(0件)

ウ.「キアロスクーロ -ルネサンスとバロックの多色木版画」ギャラリートーク 5回

開催期間 平成17年10月14日(金)(20名),10月28日(金)(20名),
11月11日(金)(26名),11月25日(金)(30名),12月2日(金)(24名)
(5日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 120名

担当した研究員数 4人

事業内容 展覧会の見所,主な作品について,夜間開館を行っている金曜日にギャラリーで解説を行った。

アンケート結果（回答数21件）

- ・大変わかりやすかった 42.9%（9件）
- ・わかりやすかった 33.3%（7件）
- ・まあまあだった 14.3%（3件）
- ・ややわかりにくかった 0%（0件）
- ・わかりにくかった 0%（0件）
- ・無回答 9.5%（2件）

エ．「ロダンとカリエール」スライドトーク 1回

（本展のスライドトークは、この他に来年度にも4回実施予定である。）

開催期間 平成18年3月24日（金）（1日間）

解説者：近藤真彫（駒澤大学非常勤講師）

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 43名

担当した研究員数 5人

事業内容 展覧会の見どころや主な作品について 夜間開館を行っている金曜日に講堂でスライドトークを行った。

3．展覧会に関連する音楽プログラム 1回（年度計画記載回数：1回）

ア．「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」レクチャー・コンサート 1回

開催期間 平成17年9月9日（金）18：00～19：30（1日）

「オスマン・トルコへの恐怖と憧憬 - 帝国拡張がもたらした音楽文化の多様性」

企画・トーク：瀧井敬子（東京芸術大学演奏芸術センター助手）

特別ゲスト：斉藤完（トルコ音楽研究家）

演奏：東京芸術大学有志 ベリーダンス＝サズ FUJI，他

開催場所 企画展示館展覧会会場入口ロビー（地下2階）

参加者数 100名（平成12年度実績人数は、上記「2．スライドトーク等700人名に含まれる）

担当した研究員数 4人

事業内容 現在では美術と音楽という異なるジャンルとして観賞されている二つの芸術を、再度関連づけることによって美術の楽しみ方に広がりを持たせることを目的としたコンサート

4．「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール」に関する音楽会 3回（年度計画記載回数：3回）

ア．ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展開催記念コンサート

開催期間 平成17年5月12日（木）（100名），14日（土）（100名），15日（日）（100名）
（3日）

「ラ・トゥールの聴いた響きをもとめて」

出演：フランスの古楽アンサンブル“ル・ポエム・アルモニーク”

開催場所 企画展示館展覧会会場入口ロビー（地下2階）

参加者数 300名（各回定員100名）

担当した研究員数 5人

事業内容 ラ・トゥールの絵にも描かれているヴィエル（手回し琴）などの古楽器を交えながら、各地の伝承古謡を中心としたプログラムによって、ラ・トゥールの時代の空気を再現

5．イヤホンガイドの実施（共催展において3回実施）

利用者総数 72,089名

ア．「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」

実施期間 平成17年3月8日（火）～5月29日（日）（73日間）

（うち、平成17年度52日間）

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 24,195名（一般23,452名，学生743名）

（3月8日からの利用者総数31,988名（一般30,903名，学生1,085名）

担当した研究員数 1人

アンケート結果(回答数84件)

- ・大変わかりやすかった 57.1% (48件) ・わかりやすかった 31.0% (26件) ・まあまあだった 10.7% (9件)
- ・ややわかりにくかった 1.2% (1件) ・わかりにくかった 0% (0件) ・無回答 0% (0件)

イ. 「ドレスデン国立美術館展 世界の鏡」

実施期間 平成17年6月28日(火)～9月19日(月)(74日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 45,349名(一般42,416名,学生2,933名)

担当した研究員数 1人

事業内容 同上

アンケート結果(回答数82件)

- ・大変わかりやすかった 53.7% (44件) ・わかりやすかった 25.6% (21件) ・まあまあだった 18.3% (15件)
- ・ややわかりにくかった 0% (0件) ・わかりにくかった 0% (0件) ・無回答 2.4% (2件)

ウ. 「ロダンとカリエール」

実施期間 平成18年3月7日(火)～6月4日(日)(79日間)

(うち,平成17年度22日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 2,545名

担当した研究員数 1人

自己点検評価

【良かった点,特色ある取組み】

企画展ごとに複数の講演会,スライドトークあるいはギャラリートークを実施した。「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展」では,通常より多くの講演会を行い,また既存のレクチャー・コンサートとは別にイベントとしてフランスより古楽器のアンサンブルを招聘して特別コンサートを開催した。「ドレスデン国立美術館展」では,東京芸術大学音楽学部演奏芸術センターとの協力によるレクチャー・コンサート「オスマン・トルコへの恐怖と憧憬 - 帝国拡張がもたらした音楽文化の多様性」を開催した。トルコ軍隊楽器の解説やトルコ音楽の西洋音楽への影響,そしてベリーダンスなどの実演を伴う質の高いプログラムであった。音楽を通じて展覧会や作品を理解するために企画されたコンサートはいずれも好評を博した。

【見直し又は改善を要する点】

講演会の切り口やテーマのヴァリエーション,対象(初心者から専門家まで)のヴァリエーションも考慮した企画を,昨年度に引き続き検討していく必要があると考える。

また,展覧会に関連したプログラム全体についても,恒常的なプログラムとして予算化するものと,その展覧会の単発のイベントとして外部資金で運営するものに分けて整理・検討する必要がある。

(3) - 1 研修の取組

中期計画

- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討，実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し，専門性を高めるための研修を実施し，人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに，情報交換，人的ネットワークの形成に努める。

実績

1. 他の機関が実施する研修への協力を実施

ア. 国立科学博物館上野の山ミュージアム・クラブ見学会へ協力

研修期間 平成17年7月18日（月）（1日間）

開催場所 国立西洋美術館

参加者数 23名

担当した研究員数 2人

事業内容 国立科学博物館が上野の文化施設等と連携して行う教育普及事業へ協力し，美術館見学会，美術館体験活動への支援を行った。

イ. 玉川大学芸術学部 博物館施設の見学実習へ協力

研修期間 平成17年7月29日（金）（1日間）

開催場所 国立西洋美術館

参加者数 17名

担当した研究員数 1人

事業内容 玉川大学が博物館実習の授業の一環として行った博物館施設の見学実習に協力し，説明・解説，現場での教育普及活動体験などの支援を行った。

ウ. 平成17年度文化財行政講座へ協力

研修期間 平成17年11月9日（水）（1日間）

開催場所 国立西洋美術館（施設見学）

参加者数 32名

担当した研究員数 1人

事業内容 文化庁が都道府県及び市（区）町村教育委員会等の文化財行政担当者職員の資質の向上を図るため主催する講座に協力し，美術館施設設備の見学等への支援を行った。

エ. 東京都図画工作研究会研究協議会へ協力

研修期間 平成18年2月14日（火）（1日間）

開催場所 国立西洋美術館 本館第3展示室

参加者数 23名

担当した研究員数 1人

事業内容 東京都図画工作研究会が実施する研究協議会の講習企画検討へ協力・支援を行った。

オ．日本経営クラブ 講演会及びミニコンサートへ協力

研修期間 平成18年3月10日(金)(1日間)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 110名

担当した研究員数 1人

事業内容 日本経営クラブが各企業ビジネスマンの異業種交流会を目的として開催した「ロダンとキャリア」展の講演と演奏会に協力し、講演・説明・解説等(講師：主任研究官 大屋美那)の支援を行った。

カ．平成17年度第2回東京都博物館協議会見学研修会へ協力

研修期間 平成18年3月28日(火)(1日間)

開催場所 国立西洋美術館 企画展示室，常設展示室

参加者数 31名

担当した研究員数 1人

事業内容 東京都博物館協議会が実施する見学研修会へ協力し、講演及び美術館施設設備の見学・説明等の支援を行った。(講師：主任研究官 大屋美那)

自己点検評価

【良かった点，特色ある取組み】

平成17年度においても，他の機関が実施する研修等事業への協力を積極的に取り組んでおり，講演，施設見学・説明等の多様な支援を行った。当館では他にも教育普及のプログラムとして，先生(小・中・高等学校教員)のための観賞プログラム，東京都図画工作研究会との連携による教員対象の鑑賞授業研修会及び，武蔵野市市立小中学校教育研究会図工・美術部会との連携による教員研修会を例年企画・開催しており，プログラムの参加者からは有意義であるとの好評を得ている(詳細は「教育普及」児童生徒を対象とした事業欄へ)。

また，その他にも平成17年度は独立行政法人教員研修センターが行う教員研修に協力し，研修受講者の美術館見学に対し観覧料金の減免を行うなどの支援を実施したほか，愛知万博記念UNESCO国際ワークショップ「文化の多様性を支える新技術 デジタル技術と文化財」に後援として参加し，本分野での交流を促進する研修事業に対し支援を行った。

【見直し又は改善を要する点】

今後も引き続き研修会への協力・支援を行い，情報交換，人的ネットワークの形成を推進し，美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムの検討と実施に努めたい。

(3) - 2 大学等との連携

実績

1. 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力
研修期間 平成17年4月1日～平成18年3月31日
開催場所 国立西洋美術館
担当した研究員数 2人
事業内容 人文社会系研究科文化資源学研究専攻の一層の充実と、当該研究課の学生の資質の向上を図り、相互の教育・研究の交流を促進し、もって学術の発展に寄与することを目的として連携・協力を実施した。

2. インターンシップ制度の実施
研修期間 平成17年4月1日～平成18年3月31日(原則年度中に3ヶ月以上、6ヶ月以内の期間)
開催場所 国立西洋美術館
参加者数 5人(平成12年度実績無し) 平成14年度からの新規事業
担当した研究員数 4人
事業内容 西洋美術に関心を持つ人材の専門的知識と技術の向上を図り、当館の活動をより広く理解してもらうこと、並びに教育機能の充実を図ることを目的として美術館における実務研修を実施した。

自己点検評価

【良かった点, 特色ある取組み】

平成17年度のインターンシップ・プログラムは、5名を受入れ研修を実施した。西洋美術史の分野では所蔵作品の美術史的研究, カタログ編纂のための資料収集, 展覧会の準備業務補助等の研修を行い, 多くの要素を実地に見聞し, 積極的に実践した。情報資料の分野では洋雑誌の遡及入力, エフェメラ・コレクション(特殊資料)の整理, 研究資料センターにおけるカウンター業務の研修を行った。教育普及の分野ではジュニアパスポートの改善調査を課題としたことによって, 印刷物の改善に大きく貢献した。調査結果を反映して制作された「キアロスケーロ展」のジュニアパスポートでは, パスポートの形状や内容の改善のみならず, パスポートに関連して会場に版画のハンズ・オンの体験コーナーを設置することによって展覧会の理解を深めることに成功した。今回実施した各研修は, 西洋美術や美術館に関心を持つ人材の育成に貢献したものとする。

【見直し又は改善を要する点】

今後も美術館活動を担う人材の育成や美術館活動全体の活性化に寄与していくため, 大学等との連携及び本部や他館との経験の共有に努め, 教育・研究交流の充実を図っていく必要がある。

(3) - 3 ボランティアの活用状況

中期計画

(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。

実績

1. 登録人数 19人

2. 活動内容

ファミリー・プログラム「びじゅつーる」貸出担当 12回 (参加者数755名)

ファミリー・プログラム「どうびじゅつ」の実施

「暑中お見舞い申し上げます」 8回 (参加者数131名)

「キラキラ色のヒミツ」 4回 (参加者数73名)

スクール・ギャラリートーク 37回 (参加者数1,221名)

(, , の詳細は「教育普及」児童生徒を対象とした事業欄へ)

教育普及プログラムの補助担当

ボランティア研修全8回

・当館研究員による講義

・外部講師による講義

平成17年10月29日(土) 講師：学芸大学付属小金井中学校 水野谷 憲郎

・他施設の見学

平成17年4月7日(木) 桜井美術鑄造

・活動内容についてのディスカッション

3. 今後の取り組み

現在行っている活動の充実を図る。これまでは教育普及スタッフが「どうびじゅつ」の企画を行っていたが、来年度からはボランティアスタッフが主体となって企画から携わる。また、スクール・ギャラリートークについても、各担当が行っているトークの評価を行い、問題点を共有して、よりよいトークの提供を目指したい。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取り組み】

初年度となった昨年度の研修を終えたボランティアスタッフが、平成17年度は本格的にスクール・ギャラリートーク、ファミリー・プログラムを開始した。スクール・ギャラリートークは、予約者すべてに対応し、さらに生涯学習センター等の成人団体からの依頼に対しても積極的に対応し、数多くギャラリートークを行った。また、ファミリー・プログラムの「どうびじゅつ」に関しては、企画立案に対する興味と意欲を見せるスタッフが多く、来年度の夏期の「どうびじゅつ」を共同で企画することとなった。「びじゅつーる」では、ボランティアスタッフが窓口となることで、定期的な貸出を可能とし、利用者の拡大につながった。

その他、Fun with Collectionのプログラム、年始開館時のギャラリートーク、当館研究員のほか外部講師による講義及び他施設の見学等の研修についても積極的に行い、ボランティア等と連携協力した活動が実施されたと考える。

【見直し又は改善を要する点】

各ボランティアスタッフにかかる仕事量に、多少の偏りが出てきている点について、現時点ではまだ問題となっていないが、今後の展開を考慮し検討をする必要がある。また、将来にわたって美術館がすべてを管理するのではなく、ボランティアスタッフのボランタリーな活動を支える自主的な組織作りへの提案を行っていくほか、館のボランティアの独自性と、国立各館との共通性について更に検討を続ける必要があると考える。

(4) 渉外活動

中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

実績

1. 展覧会を開催するにあたり、新聞社、企業、メセナ財団より協力及び支援を得て、企画・運営、渉外、利用者サービス等の充実を図った。

日本航空株式会社より、「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画」を開催するにあたり、作品輸送及びクーリエ・展覧会関係者国際線航空券の割引協力を得た。

(財)東芝国際交流財団並びに(財)UFJ信託文化財団より、「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。これにより作品リスト等の広報印刷物を作成し、入館者へ無料配布した。

(財)西洋美術振興財団より、講演会等教育普及事業に関する助成を得た。

凸版印刷(株)並びに上野ロータリークラブ会員有志より、ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展開催記念コンサート「ラ・トゥールの聴いた響きをもとめて」を開催するにあたり助成等の支援を得た。

(株)ジャルパック並びに(株)ドキュメンタリージャパンより、助成金を得た。

(株)メディ・イシューより、観葉植物の寄贈を受け、館内環境の整備に活用した。

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール 光と闇の世界」展において、コーデックスイメージズインターナショナル、クインランド、京都市立芸術大学と連携し、マルチメディア機器・機材及びDVD・映像ソフト等の提供を受け、マルチメディアによる情報コーナーの設置を実施した。

「《ローマの景観》：ピラネージのまなざし」展において、株式会社日立製作所の支援により、プラズマディスプレイ及びタッチモニタを設置し、ピラネージに関する情報提供を行った。

2. 企業等との連携を進め、美術館・展覧会情報等の掲載及び割引入場券発券等の幅広い広報活動を図った。

上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」に加入し、ポスター掲示、チラシ・割引券等の配布、広報誌「うえの」(発行：上野のれん会)への展覧会情報掲載など、上野のれん会加盟店を通じた幅広い広報活動を実施した。

上野 松坂屋が発行する「Weekly Matsuzakaya」に展覧会情報を掲載した。

「Weeklyぴあ」(発行：ぴあ(株))に展覧会情報を掲載した。

東京地下鉄株式会社、小田急電鉄株式会社、東武鉄道株式会社、東京急行電鉄株式会社と連携し、東京地下鉄株式会社が発売する「東京地下鉄1日乗車券」を利用された方への特典として、国立西洋美術館常設展料金の割引(一般420円 340円)を実施した。また本事業に関連し、東京メトロ各駅と美術館においてチラシの配布とポスターの掲出を行い、相互協力による広報活動を推進した。

携帯電話待受画像サービスサイト((株)イーピクチャーズ)と連携し、所蔵作品の携帯電話待受画像を配信した。

テクノシステム(株)が全国の幼・小・中・高校、及び文化施設へ向けて配信するメールマガジン「校外学習通信」へ美術館及び展覧会情報等を掲載した。

東京の美術館・博物館等46館で実施する共通入館券(東京・ミュージアムぐるっとパス)実行委員会に参加し、常設展共通入場券を発行した。

東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」並びに青少年育成事業「家族ふれあいの日」へ参加し、常設展料金の割引等を実施した。

平成18年1月2日(月)に、NPO法人美術ファンクラブ(サポート：三井住友海上(株)、コスモ石油(株))並びに東京国立博物館と連携し、美術館・博物館へ行きやすい環境作りを目的とした企画「美術館・博物館へ

行こう A Day in the Museum」を実施し、常設展を無料観覧日とした。

平成17年8月9日(火)に、東京文化会館が行った「夏休み子ども音楽会」に協力し、音楽会参加者が国立西洋美術館常設展示を観覧する場合の入場料金を無料とした。

国土交通省が実施するキャンペーン事業「YOKOSO! JAPAN WEEKS 2006」へ協力し、平成18年1月31日～2月20日の期間について、パスポートを提示した外国在住者の方の常設展料金の割引を実施した。「ドレスデン国立美術館展」において、日本経済新聞社特別鑑賞会を実施(平成17年8月29日(月)及び9月7日(水))

3. 地域との連携を進め、他の機関・団体等と共同・連携し、幅広い広報活動を行った。

東京都「上野地区観光まちづくり推進会議」へ参加し、観光の視点に立った特色ある魅力的なまちづくりの実現に向けた地域の調査・検討会議において共同・連携を行った。

台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」, 「art-Link上野 - 谷中2005」へ参加し、地域との連携を推進した。

東京都が実施した「東京ユビキタス計画 上野まちナビ実験」に参加し、ICタグ設置及び携帯端末による美術館での展覧会情報、料金、誘導案内等の情報提供を行った。

平成17年5月18日(水)に、イコムが世界規模で行う「国際博物館の日」と連動して、国立西洋美術館、東京国立博物館、国立科学博物館、東京藝術大学大学美術館、東京都美術館、東京都恩賜上野動物園、上野の森美術館、台東区、上野のれん会が協力し、上野地区での記念事業を行った。国立西洋美術館においては常設展を無料観覧日としたほか、ポストカードの無料配布、国立西洋美術館、東京国立博物館、国立科学博物館3館による記念事業「西美・科博・東博たんけんツアー」を実施した。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成17年度も、引き続き企業や地域その他機関・団体との連携による活動に力を入れ、幅広く創意工夫したことにより、多方面に渡る連携先との相互支援関係が得られた。

企業等との連携では、新たにNPO法人美術ファンクラブ(サポート:三井住友海上(株)、コスモ石油(株))及び東京国立博物館と連携し、美術館・博物館へ行きやすい環境作りを目的とした企画「美術館・博物館へ行こう A Day in the Museum」を実施した。年始の開館日である平成18年1月2日(月)を無料観覧日としたほか、ギャラリートーク及びポストカード・携帯用壁紙・カレンダープレゼントの特別企画を行った。これらの試みによって1月2日の入館者数実績が以前に比べて増(昨年度比6倍強)となり、当初に目指した「美術館・博物館へ行きやすい環境作り」という目的に対して着実な成果を得られたと考える。

また、その他に平成17年10,11月に東京都が行った「東京ユビキタス計画 上野まちナビ実験」に協力し、ICタグの設置及び携帯端末による美術館での展覧会情報、料金、誘導案内等の情報提供を行った。この「ユビキタス」の技術や情報提供の手法は、美術館での活用を検討するうえでも参考となるものであり、今後はこの経験を美術館事業の充実につなげたい。

【見直し又は改善を要する点】

今後も美術館側から外部に向けた積極的な提案や対応について検討を続け、さらに渉外活動を推し進め、企業や、地域その他機関・団体と一体となった連携活動により、美術館の運営並びに観光や地域の振興にも寄与することが可能となるような方策の実現に努めたい。また、この分野での専門の担当者の配置についても検討すべき課題であると考えている。

5 . その他の入館者サービス

中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

実 績

1 . 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1

障害者トイレ	5 箇所(本館 1 階 1 箇所 , 企画展示館地下 1 階 1 箇所 , 企画展示館地下 2 階 3 箇所)
障害者エレベータ	4 基 (新館 1 基 , 企画展示館 3 基)
段差解消 (スロープ)	2 箇所 (正門 , 本館 1 9 世紀ホール)
風除扉の自動扉化	7 箇所 (本館 2 箇所 , 新館 4 箇所 , 企画展示館 1 箇所)
貸出用車椅子	1 0 台 (1 階インフォメーション)
貸出用杖	1 0 本 (1 階インフォメーション)
盲導犬・身体障害者補助犬を伴う利用可能	
国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備	
平成 1 7 年度 , 本館の身体障害者トイレを , ストーマ装具装置者 (人工肛門装置者対応・オスメイト) への対応及び乳幼児の授乳やおむつ替えにも対応できる多目的トイレへ改修した。	

2 . 観覧環境の充実 (1)-2 , (1)-4

共催展において音声ガイドの実施

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」

「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」

「ロダンとカリエール」

総貸出件数 7 2 , 0 8 9 件

展示解説ビデオ等を上映

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(企画展示館展示ロビー)

「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」(企画展示館展示ロビー)

「ロダンとカリエール」(企画展示館展示ロビー)

情報コーナーの設置

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(PC 端末設置 , DVD によるデジタル検索 , 映像の上映)

「《ローマの景観》: ピラネージのまなざし」(プラズマディスプレイ及びタッチモニタを設置)

ジュニアパスポート、作品リスト及び、ワークシートを作成し、無料配布

ア . ジュニアパスポート (日本語版) 及び作品リスト (日本語版 , 英語版) 作成

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」

「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」

「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画」

「ロダンとカリエール」

イ . 作品リスト (日本語版 , 作品名等の外国語併記あり) 作成

「マックス・クリンガー版画展」作品リスト 日本語版 (作品名等の英語表記あり)

「《ローマの景観》：ピラネージのまなざし」作品リスト 日本語版（作品名等の英語表記あり）

「芸術家とアトリエ」展作品リスト 日本語版（作品名等の仏語表記あり）

ウ．ワークシート等の無料配布

いろいろメガネPart1 冬のプログラム「クリスマス・キャロル」

レクチャー・コンサート「オスマン・トルコへの恐怖と憧憬 - 帝国拡張がもたらした音楽文化の多様性」

国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語版，英語版，韓国語版，中国語版），小中学生向け常設展解説『びじゅつあー 国立西洋美術館はじめてガイド』，展覧会案内チラシ，美術館情報等の広報印刷物を無料配布

作品解説パネル，会場内サインの整備を実施。また，常設展を1月31日（火）から一部リニューアルしたこと

とに合わせて，国立西洋美術館参考順路図を改訂し会場内で無料配布

3．夜間開館等の実施状況 (1)-3

夜間開館実施状況

ア．開催日数 48日

イ．入館者数 25,616人（総入館者数824,336人，夜間開館入場率3.1%）

ウ．実施日 毎週金曜日を20時まで開館

小中学生の入場料の低廉化

ア．昨年度に引き続き，常設展及び自主企画展は年間を通じて観覧料金無料とした。

「常設展」

「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画」（自主企画展）

イ．共催展についての実施を積極的に共催者に働きかけ，共催者の協力を得て観覧料金を無料とした。

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」

「ドレスデン国立美術館展 - 世界の鏡」

「ロダンとカリエール」

以外の入場料金の取り組み

ア．独立行政法人化前には同一の料金区分であった学生料金を，大学生料金と高校生料金の二つに分け，高校生料金の低廉化を図っている。

・学生130円（団体70円） 大学生130円（団体70円），高校生70円（団体40円）

イ．自主企画展「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画」においては入場料に割引料金を設定して割引券及び前売券を発行し，料金の低廉化を図った。

・割引券 一般850円 800円，大学生450円 400円，高校生250円 200円

・前売券 一般850円 700円，大学生450円 350円，高校生250円 150円

前売券発売場所：国立西洋美術館売札，東日本旅客鉄道

ウ．東京の美術館・博物館等46館で実施する共通入館券（東京・ミュージアムぐるっとパス）実行委員会に参加し，常設展共通入場券及び企画展入場割引券を発行した。

・ぐるっとパス2005 2,000円（参加施設46館に，最初の利用日から2ヶ月の間に各館1展示1回の入場が可能）

エ．東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し，常設展の割引入場引換券を掲載した。

・ウェルカムカード 一般420円 340円

オ．東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」へ参加し，常設展観覧料の優待を行った。

・毎月第3土曜日，日曜日の「家族ふれあいの日」及び「都民の日」に，優待券使用で高校生以上の観覧料を2名まで無料

カ．常設展については毎月第2・第4土曜日，国際博物館の日及び文化の日を無料観覧日としている。

（開催日数25日，入館者数17,714人）

その他の入館者サービス

利用者の「満足」を生み出すため，サービスの質の向上に努めている。

ア．館内の売札所において，自主企画展・共催展前売券を販売

イ．自主企画展「キアロスクーロ - ルネサンスとバロックの多色木版画」において，前売券を東日本旅客鉄

道でも販売

ウ. 展覧会の混雑時は、臨時の券売窓口の増設や、開館時間の延長、または開館時間を早めるなどして柔軟に対応

エ. 無料観覧券については、有効期限付きの券を発行し混雑の緩和に努めている。

オ. 春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について、午後5時の閉館時間を、5時30分まで延長

カ. 5月の連休中の振替休館日及び、8月のお盆休の期間中の休館日を臨時に開館

キ. 年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館

ク. ロダンの彫刻のある前庭及び、本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、デジタルギャラリー、資料コーナーがあるスペースを入館料無料のフリーゾーンとして開放している。

4. アンケート調査(1)-3

調査期間

(抽出アンケート調査)

平成17年 4月28日(木)～ 5月 1日(日)(4日間)(ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展)

平成17年 8月18日(木)～ 8月21日(日)(4日間)(ドレスデン展)

平成17年11月24日(木)～ 11月27日(日)(4日間)(キアロスクーロ木版画展)

平成18年 2月16日(木)～ 2月19日(日)(4日間)(常設展)

(任意アンケート調査)

平成17年 3月 8日(火)～ 5月29日(日)(73日間)(ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展)

平成17年 6月28日(火)～ 9月19日(月)(74日間)(ドレスデン展)

平成17年10月 8日(土)～ 12月11日(日)(56日間)(キアロスクーロ木版画展)

調査方法 各展覧会のアンケートを実施する際に、美術館利用後の満足度調査も併せて行っている。また、お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施している。

アンケート回収数 4,210件

アンケート結果

・大変良かった21.69%(913件)・良かった33.59%(1,414件)・まあまあだった17.74%(747件)

・あまり良くなかった0.62%(26件)・良くなかった3.25%(137件)・無回答23.11%(973件)

5. 一般入館者等の要望の反映(2)

平成17年度、本館の身体障害者トイレを多目的トイレに改修し、バリアフリーの推進を図った。

入館者への救命手当を的確に行うことを目的に、上野消防署指導員による応急手当等の講習を実施した。

昨年度に引き続き、好評であった開館時間の延長を実施し、春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について、午後5時の閉館時間を5時30分まで延長。また、5月の連休中の休館日である5月2日(月)及び8月のお盆休の期間中の休館日である8月15日(月)を開館した。

年始は1月2日(月)から開館し、NPO法人美術ファンクラブ(サポート:三井住友海上(株)、コスモ石油(株))並びに東京国立博物館と連携し、美術館・博物館へ訪れやすい環境作りを目的とした企画「美術館・博物館へ行こう A Day in the Museum」を実施した。

ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展開催記念コンサート「ラ・トゥールの聴いた響きをもとめて」を開催した。

日程:5月12日(木),14日(土),15日(日)

会場:国立西洋美術館 企画展示ロビー

展覧会特別公開:18:00~19:00(18:00受付)

公演時間:19:15~20:15(18:45開場)

出演:フランスの古楽アンサンブル「ル・ポエム・アルモニック」

料金:全席指定3,800円(展覧会特別公開を含む)

定員:各回とも定員100席

チケット:国立西洋美術館インフォメーションにて販売

「ドレスデン国立美術館展 -世界の鏡」開催記念ドキュメンタリー映画「オランダの光」上映会及びトーク

イベントを開催した。

日時：平成17年8月16日(火)，18日(木)，20日(土)，23日(火) 14：30～
トーク(23日)：青柳正規(国立西洋美術館長)，小林頼子(目白大学教授・オランダ美術史)
東京のオペラの森2006 NOMORI イベントウィーク ミュージアム・コンサートを開催した。

・「ヴェルディ～プラスの響き」

日時：3月15日(水)，24日(金) 11時，13時開演

会場：国立西洋美術館 前庭

主催：東京のオペラの森実行委員会/国立西洋美術館

出演：ローレル・プラス・クインテット(金管五重奏)

プログラム：ヴェルディ作品より歌劇《ナブッコ》より「行け我が思いよ，金色の翼に乗せて」ほか

・「世紀末フランスに生きた芸術家たち」

日時：3月31日(金) 18時開演(17時30分開場)

会場：国立西洋美術館 講堂

主催：東京のオペラの森実行委員会/国立西洋美術館

出演：奈良ゆみ(ソプラノ) 早川りさこ(ハープ)

プログラム：「ロダンとカリエールの時代～フランスの歌曲を集めて」フォーレ，サティの歌曲ほか
クリスマスイベント「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を開催した。

日程：平成17年11月29日(火)～平成18年1月9日(月)

場所：国立西洋美術館前庭

内容：ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館の前庭をイルミネーションで飾る「ガーデン・イルミネーション」，所蔵作品の「携帯電話用壁紙」データのプレゼント，次回開催展覧会に関連した「オリジナルポストカード」のプレゼントを行い，国立西洋美術館を訪れた芸術ファンへのサービスと併せて，次回展覧会のPR及び美術館へのリピーター確保の工夫に努めた。また，イベント期間中は，臨時に前庭の開放時間を21：00まで延長したほか，クリスマス前の土・日曜日(12月10，11，17，18日)にはレストランの営業時間も延長し，21：00までの営業とした。

6. レストラン・ミュージアムショップの充実(3)

ア. レストラン

企画展覧会に関連した料理をメニューに取り入れている。(ラ・トゥール展では，フランス，ブルゴーニュ産のワイン)

ケーキの品揃えの充実と質的向上に力を入れており，毎年3月に新商品を発表し，商品の入替えを行っている。平成18年2月に魚料理と肉料理の内容を一部改め，質の向上に努めた。

お客様の要望に応え，季節に応じたメニューの取り扱いを実施している。(季節ごとのおすすめパスタ，ランチメニューの魚など)

セットメニューを増やすなどして，利用しやすい料金設定に努めている。

お客様の要望に合わせたラストオーダー時間の延長をするなどして，サービスの向上に努めている。

レストランの完全禁煙化を実施している。

イ. ミュージアムショップ

お客様の要望に応え，国立西洋美術館所蔵作品オリジナルグッズの新商品を開発し販売を行った。平成17年度の新商品は，ロダン「考える人」の「ボトルストッパー」，ロダン「地獄の門」の「カードスタンド」，モネ「睡蓮」及びゴッホ「ばら」をイメージした「ビーズ・キット」である。「ビーズ・キット」は新聞等でも紹介される大好評の商品となった。また，所蔵作品のオリジナル複製画(モネ「睡蓮」，ゴッホ「ばら」，セザンヌ「ジャ・ド・ブッフアの眺め」，ルノワール「帽子の女」)の受注販売も引き続き行っている。

お客様から要望の多かった作品の絵はがきを作成し，種類の入れ替えを行った。

書籍の充実を図り，子どもから大人や専門家まで対応が可能な幅広い品揃えになるよう努めている。

遠方のお客様にはカタログ等の通信販売にも対応するなどして，サービスの向上に努めている。

お客様が比較・選択しやすいように，売場のショーケースの内容を季節ごとに変えるなど，ディスプレイ方法の見直しに努めている。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成17年度においても入館者へアンケート調査を行い、満足度及びシニア層への調査も併せて実施した。また、そのアンケート結果の分析によるお客様からの要望への対応を重視し、「施設の整備」、「鑑賞環境の充実」、「開館時間延長・連休期間の臨時開館による観覧者の利便性向上」、「美術館への親近感の醸成に結びつく各種イベント開催」の4つの事業の充実に取り組んだ。

施設の整備では、本館の身体障害者トイレを、車椅子の方以外にも、妊婦の方、ご高齢の方、小さなお子様連れの方など、どなたでもご利用いただける多目的トイレに改修し、バリアフリーの推進を図った。

鑑賞環境の充実では、来館者の方が有意義な時間を過ごせることを第一の目的とし、受付・案内の職員、看手及び美術館の職員、レストラン、ミュージアムショップ、すべてのスタッフが連携を保ち、来館者の方へ好感を持って頂けるよう努めるとともに、入館者への救命手当を的確に行うことを目的に、上野消防署指導員による応急手当等の講習を実施した。また、常設展を1月31日(火)から一部リニューアルしたことに合わせ、従来の参考順路図を作品の画像等を多用したものに改訂し、会場内での無料配布を開始した。

開館時間延長・連休期間の臨時開館による観覧者の利便性向上においては、好評であった開館時間の延長を昨年度に引き続いて実施し、春の企画展開催日から秋の企画展開催日までの間の開館時間について、30分延長することとしたほか、5月の連休中の休館日である5月2日(月)、8月のお盆休の期間中の休館日である8月15日(月)及び年始の1月2日(月)を開館して、開館時間を量的に増やすことに努めており、観覧者が利用しやすい環境の整備を図っている。

美術館への親近感の醸成に結びつく各種イベントの開催では、ラ・トゥール展開催記念コンサート「ラ・トゥールの聴いた響きをもとめて」、ドレスデン国立美術館展開催記念「映画「オランダの光」上映会及びトークイベント」、「東京のオペラの森2006 ミュージアム・コンサート」、「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を前庭や講堂において実施した。また、年始の1月2日(月)に、NPO法人美術ファンクラブ並びに東京国立博物館と連携し、美術館・博物館へ訪れやすい環境作りを目的として実施したイベント「美術館・博物館へ行こう A Day in the Museum」では、当日を無料観覧日としたほか、ギャラリートーク及びポストカード・携帯用壁紙・カレンダープレゼントの特別企画を行ったことにより大勢のお客様に訪れていただくことができ、1月2日の入館者数実績が昨年度比6倍強の実績となった。

(1月2日開館日の入館者数：平成16年 439人、平成17年 447人、平成18年 2,925人)

【見直し又は改善を要する点】

施設内で来場者に万一の事態や事故が生じた時のことを想定し 救急救命法の講習を定期的に行っているところであるが、さらに救命手当を的確に行える体制を整備するため、今後は公共の施設での導入が進められているAED(自動体外式除細動器)装置について、当館でも早期に設置を進めていく必要がある。

今後も国民の文化に対する関心はさらに増大していくと考えられる。入館者へのサービス充実に向け、展示方法や美術館の建築・デザイン整備に関する全般的な検討を継続し、より魅力に富んだ企画運営に努めていく必要があると考える。